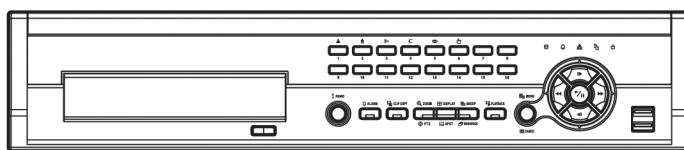
デジタルビデオレコーダー8,16 チャンネルモデル

ユーザーマニュアル

このたびは本製品をご購入いただき誠にありがとう御座います。
本書をご一読いただき、必要な時はいつでも見られるように大切に保管し、末永くご愛用ください。

付属品をご確認ください。本製品には以下のものが梱包されております。
☑デジタルビデオレコーダー ☑電源ケーブル ☑取扱説明書(本文書) ☑RASソフトウェアCDと取扱説明書 ☑ラックマウントの金具とHDDブラケット用ガイド ☑ハードディスク追加用取り付けネジ ネットワークモデルでは、本体を接続するLANケーブルやネットワーク接続環境とその設定のためのパソコン、固定IPアドレス、などをお客様でご用意いただく必要があります。 RAS-PC側の固定IPアドレスはコールバック(通知)機能を利用しない場合は不要です。

本書について
DVR 設置の際は本書の第 2 章ー「設置」を読みながら本体と周辺機器を接続して下さい。 本体の設定は第3章ー「本体の設定」で、まず機器設定の基本操作方法、また設定したい内容とメニューの関係の説明をご理解いただき、実際の操作や詳しい内容は「一般設定」・「通常設定」を参照しながら必要な設定を行ってください。 本書は、お客様が操作される「運営」を第4章に記載しております。録画設定については、本体の設定をご参照ください。 ネットワーク使用に関しては、ネットワーク接続環境が整っているかご確認ください。ネットワーク環境によってはDVR本体以外の設定が必要になります。その工事や設定は通信会社や設置場所のネットワーク管理者にご相談ください。DVR本体の設定は、本体設置(接続)後、RAS取扱説明書を読みながらPCにRASソフトをインストールし、PCとDVRをネットワーク接続して下さい。 設置やご利用の際は、「安全上のご注意」・「取扱いについて」も必ずご参照の上、ご利用ください。 なお本書は 16 チャンネルモデルを例に説明しておりますが、各チャンネルモデル共通の説明書になっております。(カメラ入力台数と、それに伴うカメラボタン･アラーム･最大分割画面などが変わります。)

安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただきたい一般事項を、警告・注意として説明しています。

⚠ 警告

- 工事は販売店に依頼する。工事には技術と経験が必要です。火災,感電,けが、器物損壊を防ぐ為にも、必ず販売店にご相談ください。
- 異常があるときはすぐに使用をお止めください。煙が出る、臭いがするなどそのまま使用すると火災の原因になります。その場合は直ちに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
- 異物を入れない。水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。直ちに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
- 不安定な場所に置かない。落下などでけがの原因になります。
- 分解しない、改造しない。火災や感電の原因になります。修理や点検は販売店にご相談ください。
- 電源コード・プラグを破損するような事はしない。傷つけたり、加工・固定したり、束ねたり・ねじったりしないで下さい。傷んだまま使用すると、感電･ショート･火災の原因となります。コードやプラグの修理の相談は販売店にご相談ください。
- 電源プラグのほこり等は定期的にとる。プラグにホコリなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり火災の原因となります。電源プラグを抜き、乾いた布などでふいてください。
- コンセントや配線器具の定格を越える使い方はしない。ブレーカーが落ちなくても配線などの発熱による火災の原因になります。

⚠ 警告

本製品に付属の「電源コード」は、本製品専用のものですので
本製品のみにお使いください。なお、他の製品への転用は保証できません。

⚠ 注意

- 通風孔をふさがない。内部に熱がこもり、火災や故障、エラーの原因になります。
- 湿気やほこりの多い場所に設置しない。火災や感電の、故障の原因になります。
- 振動や強い衝撃を与えない。内部部品の変形などで、火災や感電、故障の原因になります。

取扱いについて

電源について 使用電源はAC100Vです。設置の際は消費電力の大きな機器(コピー機や空調機など)と同じACコンセントからは電源を取らないで下さい。また本体は電源スイッチを“切”にしても電源からは遮断されません。必要に応じて本体と電源を遮断できるように、遮断装置ユニットの設置や、電源コードに容易に手が届くようにするなどしてください。
使用環境は 5℃~40℃でご利用ください。この範囲を越えると故障や誤作動の原因となります。また、温度差の大きいところや湿度の高いところへ移動すると、結露を生じることがあります。結露したまま使用すると故障の原因となりますのでご注意ください。
内蔵バックアップ電池について 時計や停電時の動作内容の保存などで内蔵バックアップ電池を利用しており、本体が通電していないときにはこの内蔵電池を利用しています。全く通電を行わない場合は、目安 3 年程で電池を交換されるか、必要に応じて交換されることをお勧めします。
とくにシステム稼動中は、振動や衝撃を与えないでください デジタルレコーダーはハードディスクドライブに録画データを保存しています。ハードディスクはわずか数ミクロンの隙間をディスクが高速で回転しており、システム稼動中に振動や衝撃を与えるとハードディスクが損傷し、デジタルレコーダーが起動しなくなったり、録画データが読み出せなくなったりします。(ハードディスクは保証対象外になります)
内蔵ハードディスク、放熱ファンは消耗品です 約30,000時間(この時間は部品の性能を保証するものではありません)を目安に交換されることをお勧めします。また消耗品の交換は保証期間内でも有料になります。交換の際はご購入店にご相談ください。
ほこりを避け、熱がこもらないように設置する。 本体には本体背面と本体右側に強制空冷ファン吹き出し口が設置され、本体の左側に空気取り入れ口が設置されています。設置の際は空気の流れを出来るだけさえぎらないように側面・背面・上面は壁面から5cm以上の間隔をあけるなどして、熱がこもらないようにして下さい。また本体内部の空気を循環させているため。床の上や足元などのほこりのたまりやすいところや、熱がこもるところ、湯気や油の多いところの設置は出来ません。また空気取り入れ口にゴミやほこりが目立ってきた時は掃除機などで取り除いてください。
雑音源を避ける。 強い磁界を発生する危機(テレビ、ラジオ、無線機、電動モーターなど)の近くでは、画像が乱れやノイズが発生するおそれがあります。また電灯線や動力線に近づけてケーブルを配線すると、ノイズが入る場合があります。このような時は設置場所やケーブル配線をかえるなどして下さい。
お手入れ 安全の為、電源を遮断した状態で乾いた布や、薄めた中性洗剤などを染み込ませ･固く絞った布で軽くふいてください。(ベンジン・シンナーは塗装がはげたり、変形したりします。)お手入れの際は、放熱ファンに物がはさまたり、指をつめたりしないように気をつけ、必要に応じて掃除機などもご利用ください。
その他 本体の故障、もしくは不都合により録画されなかった場合の補償についてはご容赦ください。

目 次

図目次

第1章 — 概要

製品の特徴

本デジタルビデオレコーダー(DVR)は、8、16チャンネルのカメラ入力を録画できます。また、監視・再生の両モードの画質に優れ、以下のような特徴を備えています。

安全性と信頼性

- 独自の暗号化技術を使用したビデオ符号化 – 保存された映像と音声データの改竄は事実上不可能。
- マルチメディアに適合した独自のファイルシステムとデータベースの使用によって、HDDの効率的使用とシステムの信頼性の向上を実現。例えば、HDD容量の90%にバッドセクターが発生しても、正常な10%の容量でシステムの正常運転が継続可能。
- OS及びアプリケーションプログラムをフラッシュメモリに搭載した事で、万一全HDDが故障しても、保存と検索以外の機能、例えば遠隔地へのイベントアラーム機能などは正常動作が可能。
- 自己診断機能を装備し、HDDの状態などシステムの状態をシステムイベントに通知。
HDDの状態は、業界標準S.M.A.R.T.プロトコルを使用。
- HDD温度の監視条件(限界温度)はユーザーが設定可能。

優れた機能・性能

- 8、16チャンネルビデオのリアルタイム監視
- 120 ips録画
- 2チャンネルオーディオ録音
- 完全な遠隔機能を提供 – 遠隔監視、遠隔検索、遠隔管理(遠隔監視の場合、同時に10名のユーザーがアクセス可能)
- 2倍デジタルズーム機能
- プログラマブルなグループとユーザー権限の設定
- リアルタイム監視の中断防止のため、設定画面の透明度調整が可能
- 多様な録画モード(スケジュール、イベント、プリイベント)
- 手軽に使える検索モードを提供(日付/時刻、カレンダー、イベント)

幅広い拡張性と利便性

- カラーと白黒(CCIRとEIA-170)ビデオソースに対応、NTSCとPAL自動感知
- VGAモニターサポート
- 外部モニターサポート
- Loop-Throughビデオ端子
- USB 2.0、2ポート装備 (マウス、S/Wのアップグレードとバックアップ用)
- 16アラーム入力とスケジュール制御可能な2アラーム出力
- POS/ATM接続をサポート
- 時間同期のためのネットワークタイムサーバーとクライアント機能
- USBマウスサポート(自動検出)
- 判り易いグラフィックユーザーインターフェース(GUI)と多言語提供

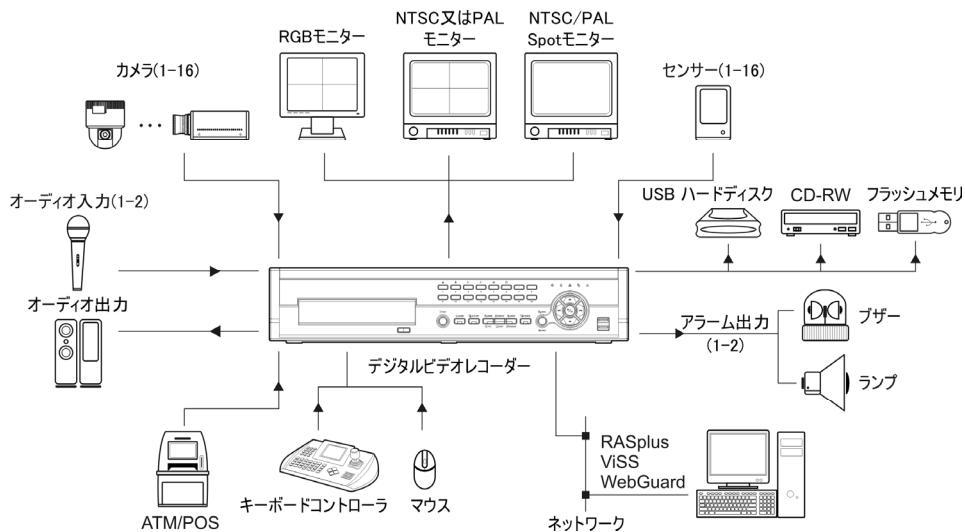



図 1 — サンプル構成図

技術要約

本DVRはデジタルセキュリティ装置として、既存のタイムラプスVCRとマルチプレクサ(Multiplexer)の代替だけでなく、最新VCRに比べてより多様で強力な機能と容易な操作性を提供致します。

本DVRは、アナログNTSCやPAL映像をデジタル映像に変換して、これをハードディスクに保存します。ハードディスクを利用することで、保存された映像を瞬時にアクセス可能で、従来型VCRのような巻き戻しの必要はありません。また、DVRが映像を録画している間でも保存された映像を見ることができます。

デジタルで保存された映像は、テープに保存されたアナログ映像に比べ多くの長所があります。例えば、トラッキング調整が不要で、且つイメージStreakingやTearingなしに画面停止、高速の再生・逆再生、低速の再生・逆再生ができます。また、検索時に時刻別及びイベント別の映像を分類して、望みの映像を直ちに再生できます。

本DVRは、イベント録画とタイムラプス録画が可能です。録画スケジュールは時刻別、曜日別そしてユーザーの定めた休日別に設定できます。

本DVRは、ハードディスクに空き空間が無くなった場合、アラーム出力やブザーによってユーザーに通知するか、又は古い映像から順に消去しながら録画を継続するように設定できます。

本DVRは、独自の暗号化技術で映像を符号化する事で、保存した映像を改竄することは不可能です。

モデムやイーサネットによって、遠隔地から本DVRをコントロールしたり映像を監視できます。USBポートを2個装備しており、USB用の外付HDDやCD-RWおよびフラッシュメモリが接続できます。

参考: 本取扱説明書では、8、16チャンネルのDVRを扱っています。各チャンネルのDVRは、接続可能なカメラ数やアラーム数、ディスプレー可能なカメラ数を除いては同一です。便宜上、本取扱説明書の図や説明は、16チャンネルモデルを基本として作成されています。

第**2**章 — 設置

内容品

本製品は下記のような内容品から構成されています。

- デジタルビデオレコーダー
- 電源ケーブル
- 取扱説明書(本文書)
- RASソフトウェアCDと取扱説明書
- ラックマウントの補助品とHDDブラケット用ガイド
- ハードディスク追加用取り付けネジ

設置に必要な道具

DVRの設置に際し、特別な専用工具は必要ありません。全体のシステムを構成する他の装置については、各装置の設置マニュアルを参照してください。

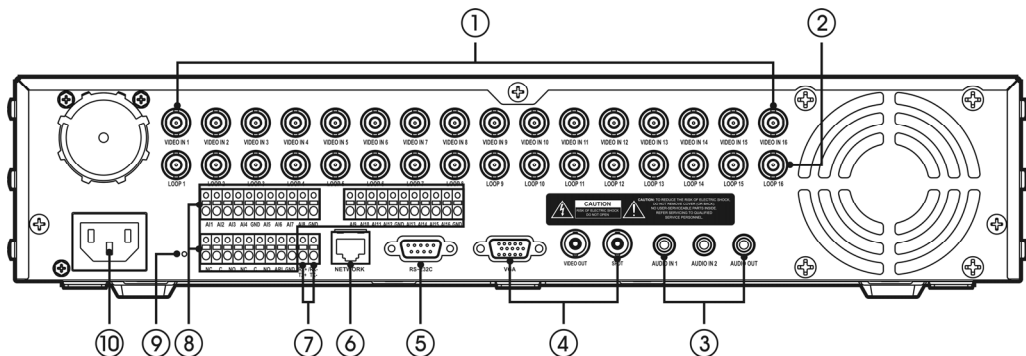



図 2 — 16チャンネルDVR背面パネル

① ビデオ入力　② ビデオLoop Through　③ オーディオ入力/出力　④ ビデオ出力
⑤ RS232ポート　⑥ ネットワークポート　⑦ RS485接続　⑧ アラーム入力/出力
⑨ ファクトリーリセットスイッチ　⑩ 電源コードコネクター

ビデオ入力

ビデオソースからBNC Video Inコネクターまで、同軸ケーブルで接続します。

ビデオLoop Through

別の装置のビデオソースを使用する場合は、Loop Throughコネクターを利用することができます。

参考: Loop Throughコネクターは自動的に終端します。終端されていないケーブルを接続するとビデオの画質が低下するため、その場合はケーブルをLoop Throughに接続しないでください。

オーディオ入力/出力

DVRは録音することができます。オーディオソースをオーディオ入力コネクターに接続して、オーディオ出力をアンプに接続します。

参考: 設置地域内の法規で録音が許可されているか判断するのは、ユーザーの責任です。

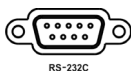
参考: DVRにはオーディオ出力アンプがないため、ユーザーはアンプとスピーカーを準備してください。オーディオ入力は複数のソースを接続できますが、内蔵アンプのないマイクの場合、直接接続すると正常に動作しません。その場合は別途のプリアンプを経てから接続してください。

ビデオ出力

VGAモニターをVGAポートに接続します。

モニターをVideo Outコネクターに接続します。Spotモニターを Spot Outコネクタに接続できます。外部モニター監視機能の内容は"第4章－運営－リアルタイム監視"部分をご参考してください。

参考: VGA Outコネクター及びVideo Out(BNC)コネクターに別途のモニターを接続して同時に運用できます。

RS232ポート

RS232ポートは遠隔監視や遠隔検索、遠隔制御や遠隔ソフトウェアのアップグレードのための外付モデムや、遠隔制御キーボードを接続するために提供されます。DVRと接続するためにDB-9S(雌)コネクターのあるモデムケーブルを利用します。モデム設定についての内容は、この取扱説明書の"第3章－システム構成－ネットワーク設定"部分を参照してください。

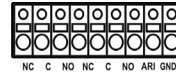
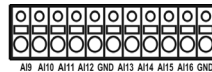
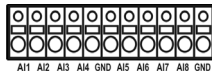
参考: このDVRはモデムケーブルを付属しておらず、大部分のモデムもケーブルを付属していません。モデムを購入する際DVRに合ったケーブルを一緒に購入してください。

ネットワークポート

このDVRは、10/100Mbpsイーサネットコネクターを利用してネットワークに接続できます。DVRのネットワークコネクターにRJ-45ジャック付のLANケーブルを接続します。DVRはコンピュータとネットワーク上で接続され、遠隔監視や遠隔検索、遠隔制御や遠隔ソフトウェアアップグレードができます。イーサネット接続の設定についての内容は、この取扱説明書の"第3章 – システム構成 – ネットワーク設定"部分を参照してください。

RS485接続

このDVRは、RS485 half-duplexシリアル通信信号を利用して、外部装置または制御用キーボードのような制御システムによって遠隔制御できます。また、RS485コネクターはPTZ(Pan、Tilt、Zoom)カメラを制御するのに使用できます。外部機器のRX-/TX-、RX+/TX+をDVRのTX-/RX-、TX+/RX+に接続します。RS485を接続するためには、この取扱説明書の"第3章 – システム構成 – カメラ設定、遠隔制御設定、テキストイン設定"部分とPTZカメラ製造メーカーの取扱説明書を参照してください。

アラーム入力/出力

参考: アラームコネクターを接続するには、ボタンを押したままラインをボタンの穴に挿入します。しっかりと接続されたかどうかボタンを離してラインを引っ張り、抜けないかどうかを確認します。ラインを抜く場合はラインの上のボタンを押したままラインを引っ張ります。

AI 1 – 16 (アラーム入力): 外部装置を利用して、イベントが発生した場合にDVRが反応するように信号を送ることができます。機械的または電気的スイッチをAI(アラーム入力)とGND(アース)コネクターに接続できます。最大電圧は4.3Vです。アラーム入力の設定に関する内容はこの取扱説明書の環境設定を参考してください。

GND (アース): アラームの入力や出力のアース側をGNDコネクターに接続します。

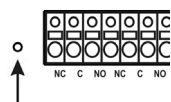
参考: GNDが表示されている全てのコネクターは共通です。

NC/NO (リレーアラーム出力): このDVRは、ブザーやライトのような外部装置をオンオフできます。動作方法はNC(Normally Closed)あるいはNO(Normally Open)タイプの中で選ぶことができます。機械的、または電気的スイッチをNCとC、あるいはNOとCコネクタに繋げられます。電気的な仕様は125VACで0.5A、30VDCで1Aシンク電流です。アラーム出力の設定に関する内容は、この取扱説明書の"第3章 – システム構成 – アラーム出力の設定"部分を参照してください。

ARI (アラームリセット): アラームリセットコネクターで入力される外部信号によって、アラーム出力と内部ブザーをリセットできます。機械的または電気的スイッチをARI(アラームリセット入力)とGNDコネクターに接続できます。接点電圧は0.3V以下で、0.5秒以上続かなければ検出されません。ワイヤを、ARI(アラームリセット入力)及びGND(接地)コネクターに接続します。

USBポート

USBポートにUSBマウスを接続することが可能であり、USB<->シリアルコンバーターを繋げてテキストイン装置を幾つか繋げるのに使うこともできます。あるいは、USB外付HDDやUSB CD-RWに録画されたビデオクリップをコピーする際に使用できます。外付ハードディスクはできるだけDVRの近くに置き、一般的に6フィートより短いケーブルで接続してください。HDDと一緒に提供されたUSBケーブルを使用してDVRに接続してください。USB外付HDDやUSB CD-RWでのビデオバックアップについての内容は、この取扱説明書の"第4章 – 運営 – バックアップ"部分を参照してください。そしてUSB<->シリアル変換器に接続してテキスト入力装置を複数台接続することができます。

ファクトリーリセットスイッチ

装置背面のアラーム出力コネクターの左側にあるファクトリーリセットスイッチは、DVRを工場出荷時の初期設定に戻す場合にのみ使用します。

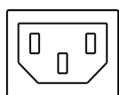
注意: 工場初期化を行う場合、ユーザーが保存した全ての**DVR**設定値は消えてしまいます。

本体の設定を初期化するために、まっすぐなピンが必要です。

1. DVRの電源を切ります。
2. DVRの電源をもう一度入れます。
3. DVRが初期化されながら、前面パネルのLEDが点滅しているときにピンでアラーム出力コネクターの左側にあるファクトリーリセットスイッチの穴を押します。
4. 前面パネルのLEDがもう一度すべて点くまでスイッチを押し続けます。

参考: ファクトリーリセットに成功したら、DVR前面パネルのLEDが5回点滅します。

5. 押していたピンをスイッチから外せば、DVRの全設定は工場出荷時の初期設定状態に戻ります。

電源コードコネクター

電源コードをDVRと電源コンセントに接続します。この装置には電源スイッチがないので、接続するとすぐに電源が入ります。

注意: 電源コードは配線を足に引っ掛からないようにし、コードが家具のせいで傷ついたりしないようにご注意ください。電源コードをじゅうたんやカーペットの下に設置しないでください。電源コードにはアースがありますが、コンセントにアース端子がないからといってプラグを改造したり、一つのコンセントにあまりたくさんの装置をつないで過負荷が生じることのないようにしてください。

DVRはこれで作動準備が完了しました。この取扱説明書の"第3章 – システム構成"と"第4章 – 運営"部分を参照してください。

第3章 — システム構成

前面パネルボタン

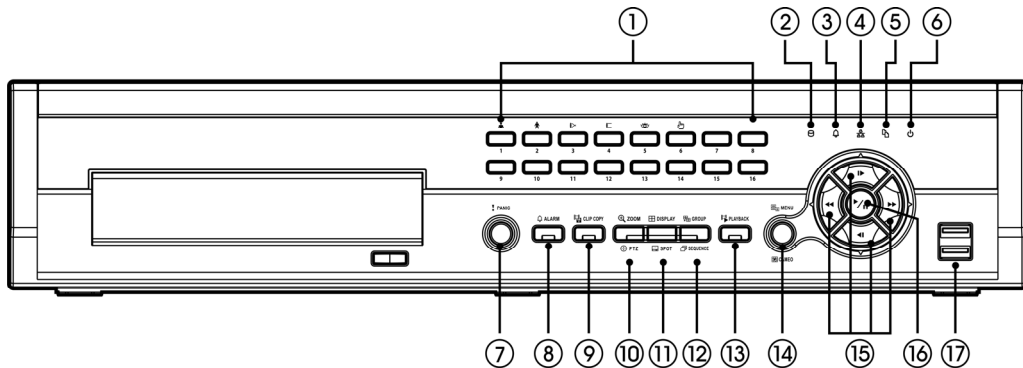



図 3 — 16チャンネルDVR前面パネル

① カメラボタン	② HDD LED	③ アラーム出力 LED	④ ネットワークLED
⑤ バックアップLED	⑥ 電源 LED	⑦ 緊急録画(パニック)ボタン	⑧ アラームボタン
⑨ バックアップボタン	⑩ ズーム/カメラ操作ボタン	⑪ 分割表示/外部モニターボタン	
⑫ グループ/シーケンスボタン	⑬ 再生モードボタン	⑭ メニュー/カメオボタン	
⑮ 矢印ボタン	⑯ 再生/一時停止ボタン	⑰ USBコードコネクター	

前面パネルのレイアウトおよび動作は、マルチプレクサーと混合したVCRのような形と方式です。大部分のボタンには一つ以上の機能があり、以下の説明を参照して各ボタンによってDVRを初期設定してDVRを作動させることができます。

参考: 一般家庭用PCのように、USBマウスを利用して各設定画面とメニューに移動することができます。

カメラボタン

リアルタイム監視モードや検索モードでカメラボタンを押すと、該当カメラの映像を全画面で見ることができます。また、パスワードを入力する場合、1から9までの数字をカメラボタンを利用して入力できます。

PTZモードで1番ボタンは画面拡大ボタンとして、2番ボタンは画面の縮小ボタンとして、3番ボタンは近距離焦点ボタンとして、4番ボタンは遠距離焦点ボタンとして、5番ボタンは保存されたプリセットに移動するボタンとして、6番ボタンはプリセット保存ボタンとして使用されます。

HDD LED

HDDに映像を保存するか、保存された映像を検索する場合、HDD LEDが点滅します。

アラーム出力LED

アラーム出力が動作している間、アラーム出力LEDが点いています。

ネットワークLED

この装置がイーサネットによって遠隔地に接続されている場合、データ送受信するとネットワークLEDが点いています。

バックアップLED

バックアップが行われている、バックアップLEDが点いています。

電源LED

この装置が稼動している間、電源LEDが点いています。

緊急録画(パニック)ボタン

緊急録画ボタンを押すと が表示されて、現在のスケジュールに関係なく映像を録画します。ボタンをもう一度押すと緊急録画モードが解除されます。

アラームボタン

アラームボタンは、アラームが作動している間内部ブザーを含むDVRの出力をリセットしたり、監視モードでアラームが発生しなかった場合にイベントログを出力します。

バックアップボタン

クリップコピー動作を行います。

ズーム/カメラ操作ボタン

ズーム/カメラ操作ボタンは画面で特定の部分を拡大して見たい時に使用します。矢印ボタンで拡大画面の画面を移動させることができ、エンターボタンを押して拡大倍率を2倍に拡大します。

ズーム/カメラ操作ボタンを2秒以上押すとPTZモードがスタートし､設定されたPTZカメラを制御します。矢印ボタンかメニューボタンを利用し、設定されたPTZカメラを制御します。

分割表示/外部モニターボタン

分割表示/外部モニターボタンを押すとPIP → 4 → 9 → 16画面に変わります。分割表示/外部モニターボタンを2秒以上押すと外部モニターに出力されるカメラを選択することが出来ます。

グループ/シーケンスボタン

グループ/シーケンスボタンを押すと、現在の画面のグループから次の画面グループに移動し、ページ番号が画面に表示されます。

ライブ監視モードでグループ/シーケンスボタンを2秒以上押すと､別のチャンネルを連続して表示するシーケンスモードに切り替わります。

再生モードボタン

再生モードボタンを押すと、再生モードに戻り、再びボタンを押すと 再生モードになります。再生モードに入ると ビデオは一時停止され、ボタンを押すと普通のスピードで再生します。一時停止モードでは画面上IIが、再生中には画面に▶が表示されます。

メニュー/カメオボタン

メニュー/カメオボタンを押すと、環境設定画面が表示されます。ログイン画面が出る場合は設定権限のあるユーザーを選択してパスワードを入力してください。ボタンをもう一度押すと、現在のメニューや設定画面は閉じます。また再生モードで検索メニューを表示するのに使用します。

メニュー/カメオボタンを2秒以上押すと、画面グループ編集モードになります。画面グループ編集モードになると 選択された カメオに黄色の枠ができ、矢印ボタンを利用してカメオの選択を変更することが可能です。カメオを選択してから使用しようとするカメラ番号のボタンを押すと選ばれたカメラの映像を該当カメオに見せます。ボタンを押し、画面グループ編集モードから出てきます。あるいはメニュー/カメオボタンを押し、カメオメニューが表示されたら"グループ編集終了"を選んでグループ編集モードから出ます。

参考: カメオとは分割画面での各カメラの映像を表示した各々の画面のことです。カメオモードからカメラ映像をお客様の望みの位置に配置し、カメラグループを編集することができます。

矢印ボタン

再生モードで◀◀ 矢印ボタンはビデオを高速で逆再生します。ボタンを押たびに◀◀、◀◀◀、◀◀◀◀に速度が切り替わります。画面にも◀◀、◀◀◀、◀◀◀◀がそれぞれ表示されます。▶▶ 矢印ボタンはビデオを高速で再生します。ボタンをもう一度押すと、▶▶、▶▶▶、▶▶▶▶に速度が切り替わります。画面にも▶▶、▶▶▶、▶▶▶▶がそれぞれ表示されます。一時停止状態から▶ 矢印ボタンを押すと現在の画面の次の画面を、◀ 矢印ボタンを押すと現在の画面の前の画面を見ることができます。

再生/一時停止ボタン

ライブ監視モードでボタンは監視画面を一時停止させて、画面上にはのようなアイコンが表示されます。再生モードではこのボタンを押すたびにビデオを一般速度で再生するか一時停止させます。

メニューの設定時、項目を選択するか入力事項を決定する場合に使用します。

ログイン

図 4 — ログイン画面

環境設定、検索などのDVRのさまざまな機能を使用するためには、使用権限のあるユーザーでログインしてください。ユーザーを選択してパスワードを入れるとログイン、そのユーザーとしてログインします。adminユーザーアカウントは初期値としてパスワードはないので、"admin"アカウントを選択してパスワード入力なしにログインします。

参考: 保安のために通常パスワードを設定してシステムを運営して下さい。パスワード無しでシステムを使うと警告メッセージが表示されます。

参考: 前面パネルを使用できない場合には接続されているUSBマウスの右ボタンを押すとログイン窓が表示されます。パスワード項目の右側の ... ボタンを選択して仮想キーボードを用いてパスワードを入力します。仮想キーボード使用の内容は"メニュー使用法—仮想キーボードを用いた文字列入力"部分を参考して下さい。

メニューの使用方法

リアルタイム監視画面でメニューボタンを押すと、設定メニューに入ります。設定メニューに入るためにはメニュー設定権限のあるユーザーでログインしてください。

図 5 — 設定メニュー画面

メニューのうち一つの項目を選択しようとする場合は、矢印ボタンで該当項目に移動してから前面パネルの ボタン、またはマウスの左ボタンで該当項目をクリックしてください。

仮想キーボードを利用した文字列入力

図 6 — 仮想キーボード

矢印ボタンを利用して任意の文字に移動して ボタンを押すか、矢印を合わせてマウスをクリックすると、文字が入力できます。 ボタンは大文字と小文字を設定し、 はカーソルの前の文字を、 はカーソルの後の文字を消します。タイトルは空欄を含めて最高31字まで入力できます。
 を選択してから ^を入力すると、コントロール文字を入力できます。例えば、^JはNL(New Line)、^MはCR(Carrage Return)として認識されます。これはテキストイン検索設定時に使用されます。

テーブルで全ての列の値を同時に設定する

"第3章 – システム構成 – カメラ設定"の場合のように、メニューがテーブルになった項目の場合、一部はテーブルのタイトル値で変更できます。その場合、タイトル値を変更すると同じ列の全ての項目が同じように変更されます。PTZカメラのIDのように、その値が同じではいけない場合には、このような方法では変えられないようになっています。

マウスの使用

マウスを使うとより便利に環境設定することができます。望みの項目をクリックして選択するのも早いし、スクロールバーのあるメニューでマウスのホイールを上下に回してメニューを手軽に上下させることもできます。また、 2006-07-26 のように数字を増減させる場合にも、マウスのホイールを回すと楽に望みの数字に設定できます。

システム情報の設定

前面パネルの メニュー ボタンを押して設定画面に移動し、システムメニューで"情報"を選択してください。

図 7 — 情報設定画面

"サイト"項目には入力されたシステムを設置した場所についての説明が表示されます(初期値はありません)。説明部分を選択して ボタンを押すかマウスをクリックすると、仮想キーボードが表示されます。それを利用して場所についての説明を変更できます。

“システムID”は別のDVRと接続された場合に、機器を区別するのに使用され、RS-485で数台のシステムを接続して遠隔キーボードによって遠隔制御を行う場合に、二台以上のDVRに同じIDを使用することはできません。システムIDの初期値は0で、0~99に変更できます。

“言語”項目を選択していろいろな言語のうちの一つを選択することもできます。

“バージョン”項目にはソフトウェアバージョンが表示されます。

“アップグレード…”を選択するとUSB検索画面が表示され、USBポートに接続された保存装置のアップグレードパッケージを選択してから、“設置”ボタンを選択してシステムをアップグレードします。

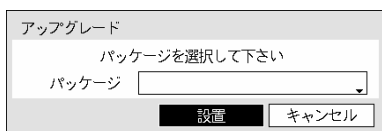



図 8 — アップグレード設定画面

アップグアップグレードパッケージの中にruiのファイルはシステムアップグアップグレード用で、ofiのファイルは光学ドライブのアップグアップグレード用です。USBポートに該当プログラムが接続されなかった場合には、画面上に失敗したというメッセージが表示されます。アップグレード後に装置が自動的に再起動され、それからアップグレードされたバージョンのソフトウェアが実行されます。

参考: システムをアップグレードするためには内蔵HDDに一時区画が必要であって、フォーマットされた内蔵HDDがない場合はアップグレードボタンが活性化されません。この場合、内蔵HDDを一個でもフォーマットするとアップグレードボタンが活性化されます。

“設定”項目でDVR設定を保存したり、読込むことができます。

図 9 — 設定読込み画面

保存されている設定ファイルを読込む場合にはDVRの設定ファイルが保存されているUSB保存装置をDVRに接続して“設定—読込…”を選択します。“ファイル名”で設定ファイルを選択してから“読込”ボタンを選択します。この時、ネットワーク設定も共に読込むかを選択できます。“ネットワーク設定含み”を選択しないとDVRのネットワーク設定は変更されません。

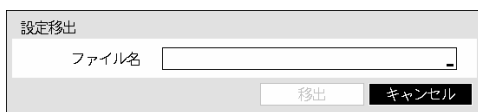



図 10 — 設定移出画面

“設定 – 移出…”を選択するとUSBポートに接続されている保存装置に“ファイル名”項目で入力したファイル名で設定ファイルが保存されます。

設定変更後に“保存”を選択して、変更になった設定を保存してください。

注意: 設定読込みを行ってもシステムの時間関連の設定は変更されません。(日付/時間/標準時間帯/サマータイム)

注意: システムアップグレード及び設定読込/移出用**USB**ドライブのファイルシステムは、必ず**FAT16**か**FAT32**で初期化したものを使用してください。

“システムログ表示…”を選択して、システムログリストの検索ができます。

システムログ

時間	タイプ	
2007/01/15 16:39:19	設定スタート	
2007/01/15 16:39:18	ログイン : admin	
2007/01/15 16:38:44	ログアウト : admin	
2007/01/15 16:38:44	設定終了	
2007/01/15 16:38:40	設定スタート	
2007/01/15 16:38:39	設定終了	
2007/01/15 16:38:31	設定スタート	
2007/01/15 16:38:29	設定終了	
2007/01/15 16:38:22	設定スタート	
2007/01/15 16:37:49	設定終了	

1 / 173

閉じる

図 11 — システムログ画面

ここに表示されるシステムログのタイプは、“付録H – システムログとエラーコードタイプ”を参照してください。システムログは最近5,000件まで表示されます。もし、遠隔接続で記録されたログの場合、一番右側の欄に アイコンが表示されます。

“録画データ – 開始”項目には、録画されたデータの最初の時間が表示され、“録画データ – 終了”項目には、録画されたデータの最後の時間が表示されます。

“全てのデータ削除…”を選択すると確認画面が表示され、もう一度“削除”を選択すると、全ての録画データが削除されます。

参考: “全てのデータ削除…”を選択しても、システムログはそのまま残っており、“全てのデータ削除”というシステムログが追加されます。

日時/時間の設定

システムメニューで“日時/時間”を選択してください。

図 12 — 日付/時間の設定画面

“日時/時間”画面で“日付”を選択すると、矢印ボタンを利用して日付を変更できます。“時間”を選択すると、矢印ボタンを利用して時間を変更できます。“日付 – 表示方式”と“時間 – 表示方式”を選択すると、日付表示方式と時間表示方式の変更ができます。

“標準時間帯”を選択すると、その地域の時間帯を選択できます。“サマータイム”を選択すると、サマータイム時間制の使用/解除できます。

図 13 — 休日の設定画面

“休日”タブを選択すると、休日を追加/削除できます。設定画面下段の“+”を選択して、任意の日付を休日に追加します。設定された日付の右側の✖表示を押して設定された休日を削除します。設定された休日の日には、録画スケジュール設定で設定した休日スケジュールに従って録画が行われるようになります。

日時/時間
日時/時間 休日 タイムサーバー
☐自動調整
タイムサーバー 0.0.0.0
調整間隔 1 時間
前回調整日時 –
☐サーバー作動
保存 キャンセル

図 14 — タイムサーバー設定画面

“タイムサーバ”画面で“自動調整”項目を選択してから、“タイムサーバ”のIPアドレスかドメイン名を入力して、“調整間隔”を設定すると、調整間隔毎にタイムサーバと時間を同期するようになります。“前回調整日時”項目は、最後に同期の行われた時間を表示します。

参考: “LAN”設定で、DNSサーバーを設定するとタイムサーバーのIPアドレスの代わりにドメイン名が使用できます。

“サーバー作動”を選択すると、本装置がSNTPサーバーとして動作するようになり、他の装置がこのサーバーの時間に同期することが可能になります。

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。

HDDの設定

システムメニューで“HDD”を選択してください。

図 15 — HDDの情報画面

“情報”画面の“タイプ”項目には、設置されたディスクのタイプが表示され、“容量”項目には各ディスクの容量が表示されます。

“初期化”項目には初期化されたディスクの場合、“録画”、“使用しない”の両方の中で使用目的に合ったものが表示されます。初期化されていない保存媒体が接続した場合には“初期化されていません”と表示されます。CD-RW及びDVD RWに保存するために作業区画がある場合は、⊙ が表示されます。CD-RW及びDVD RW保存のための作業区画が設定されているディスクが一つもない場合にはバックアップができません。

各ディスクの“初期化”を選択して録画用に初期化ができます。

用途を“使用しない”に選択してフォーマットすると該当ディスクは録画用に使用されません。“CD/DVDコピー”を選択するとCDとDVD RWにコピーするための作業区画を確保するようにフォーマットします。

図 16 — ディスク初期化設定画面

参考: システムアップグレードのためには必ずフォーマットされている内蔵HDDが1個以上設置されている必要があります。

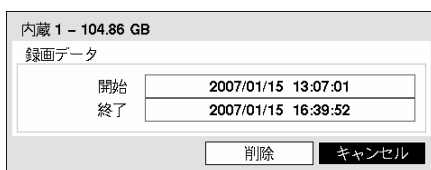
“情報”項目には設置されたディスクのレコーディング時間の情報を表示します。

他のシステムで使用されたディスクを接続した場合 “外部” に表示されます。各ディスクの“情報”を選択して保存データの時間情報が確認でき、“削除”を選択して。録画データを削除することもできます。

図 17 — ディスク情報設定画面

タイプ	ディスクエラー	温度	S.M.A.R.T.
内蔵 1	良好 (20%)	良好 (0°C)	良好
内蔵 2	良好 (0%)	良好 (0°C)	良好
内蔵 3	良好 (0%)	良好 (0°C)	良好

図 18 — HDDの状態画面

“状態”画面では各ディスクの状態を表示します。

“ディスクエラー”項目には使用されたことのないディスクの場合は“初期化されていません”と、正常に使用されているディスクの場合は“良好”と表示されます。“良好”と表示されてもHDDの一部が使用できない場合、その比率が“%”で一緒に表示されます。この比率がユーザーの指定した比率より高い場合は“エラー”として表示され、システムイベントが発生します。

“温度”項目には、温度を読み取れないディスクの場合“N/A”と、温度を読み取って正常な場合は“良好”と表示され、温度が一緒に表示されます。この温度がユーザーの設定した温度以上の場合は“不良”と表示され、システムイベントが発生します。

“S.M.A.R.T.”項目には、S.M.A.R.T.機能をサポートしないディスクの場合は“N/A”と、S.M.A.R.T.状態に異常があって24時間以内にディスクが使用できなくなる可能性のある場合は“不良”と、正常な場合は“良好”と表示されます。“不良”の場合はシステムイベントが発生します。

システムイベントが発生した場合の“動作”を設定する方法は“第3章 – システム構成 – イベント設定”部分を参照してください。

ユーザー設定

システムメニューで“ユーザー”を選択してください。

図 19 — ユーザー設定画面

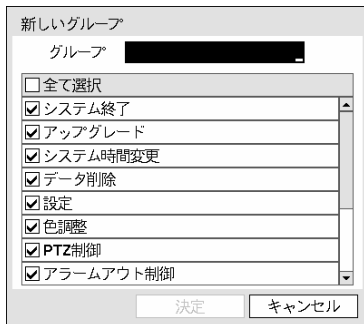
“+ グループ…”を選択するとキーボード入力画面が現れ、最高15文字までグループ名を指定できます。

グループ名を指定してから、該当グループの“権限”を選択します。

図 20 — グループ追加設定画面

設定できる権限のタイプとその内容は次の通りです。

- システム終了 – ローカルでシステム終了を遂行できる権限で、システムメニューで“システム終了…”を実行できます。
- アップグレード – ローカルとRASでシステムアップグレードを遂行できる権限で、システムメニューでシステム情報設定の“アップグレード”を実行できます。
- システム時間の変更 – ローカルとRASでシステムの日付/時間を変更できる権限で、システムメニューで“日付/時間”の設定を実行できます。
- データ削除 – ローカルとRASでシステムの保存データを消すことのできる権限で、システムメニューでシステム情報設定の“全てのデータ削除…”、HDD設定の“削除”と“初期化”を実行できます。
- 設定 – ローカルとRASでシステムを設定できる権限で、この権限がない場合は、システム終了とログアウトを除いた全ての環境設定を遂行することができません。
- 色調整 – ローカルとRASで各カメラの明るさ、コントラスト、彩度、色調値を調整できる権限です(各カメラのボタンをずっと押していると、色相調節画面が表示されます)。
- PTZ制御 – ローカルとRASで各カメラのPTZを制御できる権限で、カメラ操作ボタンを2秒以上押してPTZカメラを選択してから、PTZ関連ボタンによって制御できます。

- アラームアウト制御 – ローカルとRASでアラーム出力が発生した場合、これをリセットできる権限で、システムのアラームボタンまたはRASのアラーム出力制御ボタンを押して、アラーム出力をリセットできます。
- 隠しカメラビュー – ローカルとRASで監視モードや検索モードで隠しカメラに設定されたカメラを見ることのできる権限です。
- システム検査 – RASでシステム検査の結果であるシステム状態を見ることのできる権限で、RASで一括作業によってシステム検査を実行できます。
- 録画設定 – ローカルとRASで録画設定部分に属する環境設定を行える権限です。
- 検索 – ローカルとRASで保存された映像を検索できる権限です。
- バックアップ – ローカルとRASでバックアップできる権限で、RASではバックアップだけでなく、avi保存やJPEG保存などを実行できる権限です。

"+ ユーザー…"を選択するとキーボード入力画面が表示され、ユーザー名を指定できます。

ユーザー名を入力してからユーザーが属するグループを指定し、パスワードを入力します。パスワードは最高8文字まで指定できます。パスワードを入力する場合は、1~9までのカメラボタンを使用してください。

図 21 — ユーザー追加設定画面

参考: 前面パネルを使用できない場合には連結されているUSBマウスの右ボタンを押すとログイン窓が表示されます。パスワード項目の右側の … ボタンを選択して仮想キーボードを用いてパスワードを入力します。仮想キーボード使用の内容は"メニュー使用法—仮想キーボードを用いた文字列入力"部分を参考して下さい。

上で作られたグループとユーザー項目右側の ✖ 表示を選択する場合、グループやユーザーを消すことができ、グループ"Administrator"とユーザー"admin"は削除できません。画面上段に"ユーザーとグループ"タイトル右側の ✖ 表示を利用して、グループ"Administrator"とユーザー"admin"を除いた全てのグループとユーザーを削除できます。システムまたは遠隔ソフトウエアで該当のシステムに現在ログインされている使用者はログアウトの状態でのみ削除できます。

すでに出来ているグループやユーザーを選択して、その設定値を変更することができます。ユーザーの設定値を変えるためには、パスワードを入力しなければなりません。グループ"Administrator"の権限オプションは変更できません。ユーザー"admin"を選択した場合、パスワード以外の他の情報は変更できません。

"自動ログイン"を選択して"キャンセル"とユーザーアカウントのうち一つを選択することができ、システムがブ起動して選択されたユーザーアカウントで自動的にログインします。"自動ログアウト"を選択して時間を設定すると、システムを設定された時間の間、操作しなければ自動的にログアウトします。

設定変更後に"保存"を選択して、変更した設定を保存してください。

システム終了

システムメニューで"システム終了…"を選択すると確認設定画面が表示され、もう一度"システム終了"を選択するとシステムは正常終了します。

図 22 — システム終了画面

ログアウト

システムメニューで"ログアウト…"を選択すると確認設定画面が表示され、もう一度"ログアウト"を選択するとログアウトします。

図 23 — ログアウト画面

ネットワーク設定

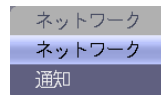



図 24 — ネットワークメニュー

ネットワーク設定

ネットワークメニューで"ネットワーク"を選択してください。

図 25 — ネットワーク設定画面

"ネットワーク"画面で"伝送速度"を設定すると、設定した速度以下でのみ映像がネットワークに伝送されます。伝送速度の単位はbpsまたはipsのどちらかを選択することができます。"画質"を設定すると、設定した画質で映像がネットワークに伝送されます。伝送速度と画質の設定値は、LANとモデムに同じく適用されます。

参考: 映像伝送速度は最高速度です。ネットワーク環境によって設定した速度以下の映像が伝送されることがあります。

図 26 — LAN(手動)設定画面

タイプの横のボックスを選択して手動、DHCP、ADSL(PPPoE)を選択することができます。

"手動"を選択するとマニュアルでLANのパラメータを設定することが出来ます。"IPアドレス"、"ゲートウェイ"、"サブネットマスク"の各項目を選択してから上下矢印ボタンで増加できます。

工場出荷時のLAN設定:

IPアドレス:	192.168.1.129
ゲートウェイ:	192.168.1.254
サブネットマスク:	255.255.255.0

"DNSサーバー"を選択してDNSサーバーのIPアドレスを入力します。

"ポート番号設定…"を選択すると遠隔管理/遠隔コールバック/遠隔監視/遠隔検索の各ポート番号を8000より12000までの番号で選択でき、DVRのポート番号を変更した時PCの遠隔ソフトも同様に変更する必要があります。詳細はRASマニュアルを参照してください。

工場出荷時のIPポート設定:

遠隔管理:	8200
遠隔コールバック:	8201
遠隔監視:	8016
遠隔検索:	10019

図 27 — ポート番号設定画面

参考: ポートの変更は、ファイアウォールなどを使用する場合に、ファイアウォールで許容されるポート番号に変更する際に使用します。

参考: 各プログラムのポート値は互いに異なっていなければならず、ポート値が同じ場合はRAS及びウェブガードにアクセスできません。

注意: ポート値を変更する場合、RASの遠隔地点IPポート設定も同じ値に変更してください。詳しい事項は、RAS取扱説明書を参照してください。

参考: ポートを変更すると、それを反映するためにシステムが再起動されます。

タイプからDHCPを選択して下の"保存"を押すとDVRはDHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)サーバーから自分のIPアドレスを取得します。

図 28 — LAN(DHCP)設定画面

タイプからADSL(PPPoE)を選択するとADSLネットワークを使用できます。IDの横のボックスを選択して ボタンを押します。仮想キーボードが表れ、ADSL接続のためのIDを入力できます。

図 29 — LAN(ADSL)設定画面

参考: ADSLとモデムは同時に設定することはできません。モデムによるネットワークでDVRを使用するのであればADSL(PPPoE)は選びません。

参考: DVRの設定がDHCPかADSLネットワークの場合、DVRのIPアドレスは接続する度に変わるかもしれません。

図 30 — モデム設定画面

モデムを使用する場合は、“モデム”画面で“使用する”を選択してください。その場合PTZ、遠隔制御やテキストイン装置がRS-232ポートを使用していれば、該当装置を使用できなくなるというアラーム画面が表示されます。

モデムの使用を選択した場合、“ボーレート”、“データ長”、“ストップビット”、“パリティー”値を正しく設定してください。

設定変更後に“保存”を選択して変更した設定を保存してください。

ネットワーク
ネットワーク
LAN
モデム
DVRNS
DVRNS(DVRネームサービス)使用
DVRNSサーバ
dvrnames.net
ポート
10088
(10000 ~ 12000)
IPルータ(NAT)使用中
DVRネーム
確認
ヘルプ
保存
キャンセル

図 31 — DVRNS設定画面

参考: LANの設定が変更された場合、“保存”ボタンを押してLANの変更設定値を保存してからDVRNSを設定して下さい。

DVRネームサービスを使用するためには、本画面でDVRをDNSに登録する必要があります。

参考: DVRネームサービスとは、ダイナミックIPを用いるDVRの遠隔管理プログラムで接続する度に変わるIPの変わりに、固有のDVRネームをDVRNSサーバーに登録して、DVRネームで該当DVRに接続できる機能です。この機能を使用するためにはDVRネームをDVRNSサーバーに登録する必要があります。

“DVRNSサーバー”を選択してDVRNSサーバーのIPアドレスかドメイン名を入力します。

ポートの横のボックスを選択してDVRNSサーバーのポート番号を入力してください。ポート番号は10000~12000が設定できます。

参考: NAT(Network Address Translation)を使用する場合、NATの機器メーカーの適切なネットワーク設定の説明書を参照してください。

“DVRネーム”を選択してDVRNSサーバーに登録するDVRのネームを入力します。入力後“確認”を選択して入力したDVRのネームが使用できるかどうかを確認できます。

参考: “確認”を選択して入力したDVRネームを確認しなければDVRNS設定を保存できません。

参考: DVRのネームを入力しないか、DNSサーバーに登録済みのDVRのネームを入力すると、エラーメッセージが表示されます。

設定変更後“保存”を選択すると入力したDVRネームがDVRNSサーバーに登録されます。DVRNS設定が適切に行われた場合は、再びDVRNS設定メニューに接続したらヘルプの横のボックスにDVRNSサーバーの情報が表示されます。

通知設定

ネットワークメニューで“通知”を選択します。

図 32 — メール通知設定画面

メール機能とは、各種イベントの動作の通知の中に“メール”が含まれた場合、該当イベントが発生すると指定されたアドレスにメールを送る機能です。メール機能を使用する場合は、“メール”画面で“使用する’を選択してから、“SMTPサーバー”のIPアドレスかドメイン名、SMTPサーバーの“ポート”番号”、“発信人”、“受信人”を設定してください。SMTPサーバーのポート番号初期値は“25”です。

参考: “LAN”設定で、DNSサーバーを設定するとSMTPサーバーのIPアドレスの代わりにドメイン名が使用できます。

参考: “発信人”と“受信人”には必ず@を含めた正確なEメールアドレスを入力してください。

“SSL/TLS使用”を選択するとSSL接続を要求するSMTPサーバーを使用することができます。

SMTPサーバーに使用者認証が必要な場合“認証”を選択して使用者認証を使用するかどうかを判断してから“ユーザー”と“パスワード”を設定します。

図 33 — メール使用者認証設定画面

“コールバック”画面で“LAN”と“モデム”をそれぞれ選択/解除して、コールバック機能を使用する装置を選択/解除することができます。この場合、上で説明したネットワークメニューでモデムを使用できるように設定していなければ、“モデム”は選択できません。

図 34 — コールバック通知設定画面

“LAN”を選択すると、コールバックを受け取るサーバーのIPアドレスを設定できます。DVRが遠隔アクセスに失敗した場合、再アクセスを試みる際に“リトライ”の回数は1回から10回まで選択できます。

“モデム”を選択すると、遠隔地サーバーとDVRの電話番号を設定できます。“遠隔サーバー電話番号”に遠隔サーバーの電話番号を入力して使用する電話システムが外部接続時に特定番号が必要ならば、“外部接続”で番号を選択します。

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の (初期化)アイコンを選択すると設定値が初期値に戻ります。

装置設定

図 35 — 装置メニュー

カメラ設定

装置メニューで"カメラ"を選択します。

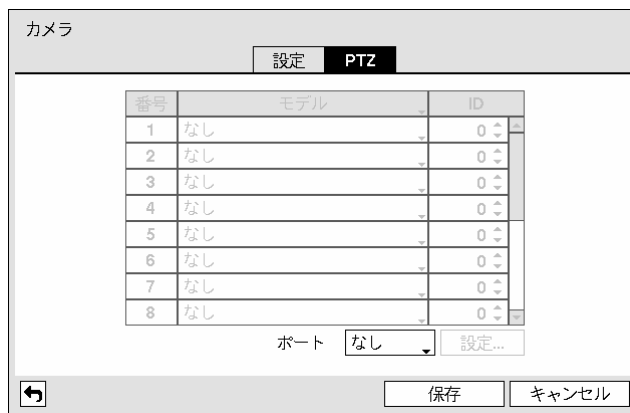



図 36 — カメラ設定画面

"設定"画面で"番号"を選択/解除して、カメラをOn/Offさせることができます。各カメラ番号の横のチェックボックスが選択されていればカメラがOn、空いていればOff状態です。選択されたカメラだけが監視画面に表示され、録画と再生ができます。

"タイトル"を選択すると、カメラのタイトルを決めることができます。

"使用"を選択すると、"普通"、"隠し1"、"隠し2"のうちの一つに変更できます。"隠し1"か"隠し2"に設定した場合、"隠しカメラビュー"の権限がないユーザーがログインすると、該当カメラの映像が監視画面に表示されず、再生時にも該当カメラの映像が再生されません。"隠し1"と"隠し2"の違いは、"隠し1"に設定した場合、映像は表示されませんが、カメラタイトルと各種OSDは表示され、"隠し2"に設定した場合はカメラが接続されていないように、映像だけでなくタイトルと各種OSDも表示されません。

"PTZ"タブを選択して"設定"画面でOnしたカメラについて、PTZカメラのタイプを選択しIDを選択すると、該当カメラをPTZモードで操作することができます。

図 37 — PTZ設定画面

図 38 — PTZカメラリスト

“ポート”設定で、PTZカメラと通信するポートをRS232とRS485のどちらか選択することができます。この場合、もしネットワークや遠隔制御、テキストインなど別の装置が同一ポートを使用している場合は、その別の装置は使用できなくなるというアラームメッセージが表示されます。

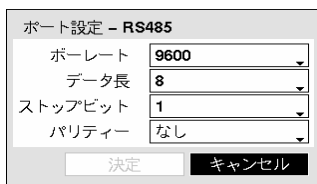



図 39 — ポート設定画面

ポートをRS232かRS485のどちらかを選択する場合、ポート設定ボタンが活性化し、“設定…”ボタンを押すと、ポートの“ボーレート”、“データ長”、“ストップビット”、“パリティー”値を設定する画面が表示されます。“ボーレート”、“データ長”、“ストップビット”、“パリティー”値を正しく設定してください。

保存する際にID値が別のPTZのID値と重複するならば、アラームメッセージが表示されます。ID値が重複しないようにもう一度設定し直してください。

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の (初期化)アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

オーディオ設定

装置メニューで“オーディオ”を選択してください。

オーディオ

番号	連動カメラ
1	なし
2	なし

☑オーディオ出力

保存　キャンセル

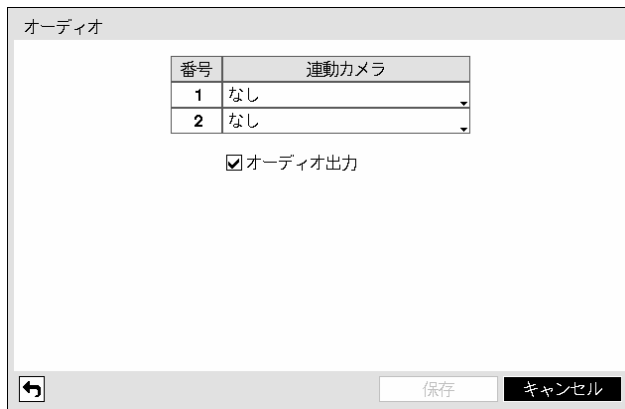



図 40 — オーディオ設定画面

“連動カメラ”を設定して”オーディオ出力”を選択すると、カメラが録画される際に該当チャンネルオーディオも一緒に録音されます。“オーディオ”を選択すると当該チャンネルの全体画面を再生する場合、オーディオを再生します。再生時には該当チャンネルの全体画面モードでのみオーディオが再生されます。

参考: 該当チャンネルが毎秒1枚以上録画されなければ、オーディオが正しく再生されません。

アラーム出力設定

装置メニューで“アラーム出力”を選択してください。

図 41 — アラーム出力設定画面

“設定”画面で“タイトル”を選択して、アラーム出力タイトルを設定できます。

“タイプ”を“NO”か“NC”に変更できます。“NO”ならばNormally Openで普通はオープン状態であり、アラーム出力発生時にクローズ状態になります。“NC”ならばNormally Closedで普通はクローズ状態であり、アラーム出力発生時にオープン状態になります。

“期間”は5秒から15分まで設定できます。アラーム出力はここで設定された時間の間作動します。

“スケジュール”画面の左下にある“+”を選択してスケジュールを追加できます。“曜日”別に選択することができ、“範囲”を選択してスケジュールする時間帯を変更できます。

アラーム出力

設定 スケジュール

番号	曜日	範囲	モード	チャンネル	✖
1	全て	00:00 ~ 24:00	イベント	1, 2, ビープ	✖

\+

保存 キャンセル

図 42 — アラーム出力スケジュール設定画面

“モード”では“イベント”、“On”、“Off”を選択できます。指定されたスケジュールに従って“イベント”モードならばイベントに連動してアラーム出力が発生するようにしたもので、“On”モードならばアラーム出力が無条件でOnになり、“Off”モードならば無条件でOffになりるものです。

“チャンネル”を選択してアラーム出力するポートとアラーム音のon/offを指定できます。

✖ ボタンを選択してそのスケジュールを消すことができます。

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面の左下の (初期化)アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

ディスプレー設定

装置メニューで“ディスプレー”を選択します。

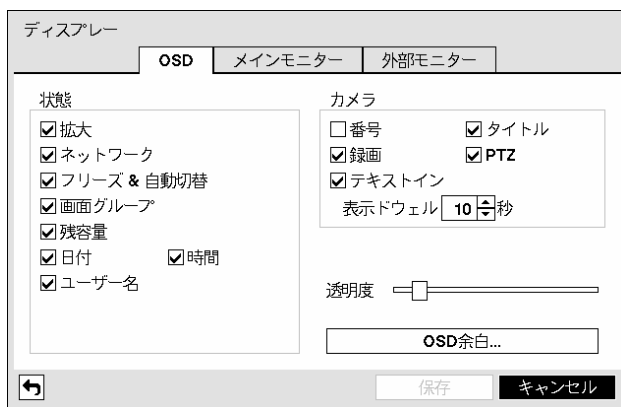



図 43 — OSD設定画面

“OSD”画面で次のような情報を画面に表示するように設定できます。

– 監視画面下段の各種状態を表示する項目

- 拡大 – 画面が拡大状態の場合は アイコンが表示されます。
- ネットワーク – ネットワークが接続されると アイコンが表示されます。
- フリーズ & 自動切替 – 一時停止状態の際に アイコンを、連続モードの際に アイコンが表示されます。
- 画面グループ – 16画面ではない場合に何番目の画面であるかが表示されます。
- 残容量 – 上書が選択された場合には アイコンが、上書きではない場合には残りの容量が%単位で表示されます。
- 日付、時間 – 日付と時間が表示されます。
- ユーザー名 – 画面右下にログインしたユーザー名が表示されます。

– 監視画面の各カメラ画面にカメラに関する情報を表示する項目

- 番号 – カメラ番号がカメラ画面左上段に表示されます。
- タイトル – カメラ名がカメラ画面左上段に表示されます。
- 録画 – 録画とスケジュールに関連したアイコンが表示されます。
- PTZ – カメラがPTZカメラに設定されている場合、PTZ アイコンが表示されます。
- ユーザー名 – 画面右下にログインしたユーザー名が表示されます。“表示ドウェル”を選択してテキストイン文字を画面に表示する期間を設定することが可能であります。

"透明度"を選択して変更すると、メニューの透明度がそれに合わせて変更されます。

"OSD余白…"を選択して垂直、水平余白を設定できます。使用するモニターに合わせて適当なOSD位置を選択してください。

図 44 — OSD余白設定画面

"メインモニター"画面でメインモニターの"モード"を"フル切替"または"切替"に変更でき、"カメラ切替間隔"を1秒~1分まで設定できます。切替監視につきましては"第4 章 – 運営 – リアルタイム監視 – 切替監視"部分を参考してください。

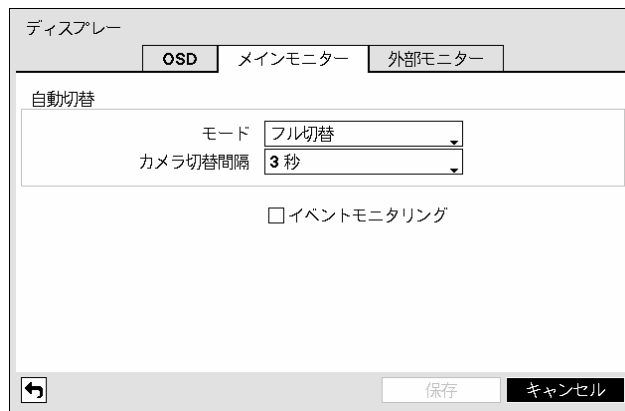



図 45 — メインモニター設定画面

"イベントモニタリング"を選択するとイベントモニタリング機能を使用することができます。この機能につきましては"第4 章 – 運営 – リアルタイム監視 – イベントモニタリング機能部分を参考して下さい。

"外部モニター"画面で切替監視に使用するカメラを選択/解除することができます。

図 46 — 外部モニター設定画面

設定変更後に"保存"を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の (初期化)アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

遠隔制御設定

装置メニューで“遠隔制御”を選択してください。

図 47 — 遠隔制御設定画面

“ポート”を選択すると、RS232かRS485のどちらか一つを選択することができ、その場合PTZかモデム、テキストインなど別の装置が同一ポートを使用する設定を行うと、ポートが重複してその別の装置は使用できなくなるというアラームメッセージが表示されます。

“ポート”をRS232またはRS485の中に選択して、右側の“設定…”を選択して “ボーレート”、“データ長”。“ストップビット”、“パリティー”を設定することができます。

“遠隔制御製品”の中で遠隔制御製品を選択することができます。

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の (初期化)アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

その他

装置のメニューで“その他”を選択して下さい。

その他
UPS
ポート なし 設定...
UPS製品
電波時計
ポート なし 設定...
電波時計製品
保存 キャンセル

図 48 — その他の装置の設定画面

UPSと電波時計を別に設定することができます。各装置の“ポート”を選択するとRS232またはRS485の中に一つを選択することができます。この場合、PTZカメラ、モデム、またはテキストインなどの装置が同じポートを使用しているとポートが重複するので警告が表示されます。

“ポート”をRS232またはRS485のいずれか一つを選択し、右側の“設定…”を選択して“ボーレート”、“データ長”、“ストップビット”、“パリティー”を設定することができます。

参考: 電波時計とDVRが正常に接続されていると12時間単位に電波時計の時刻にDVRの時刻が同期されます。電波時計との接続及び設定方法は電波時計の説明書をご参照して下さい。

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の (初期化)アイコンを選択すると、設定値が初期値に変更されます。

録画設定

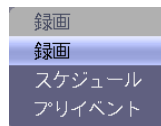



図 49 — 録画メニュー

録画設定

録画メニューで“録画”を選択します。

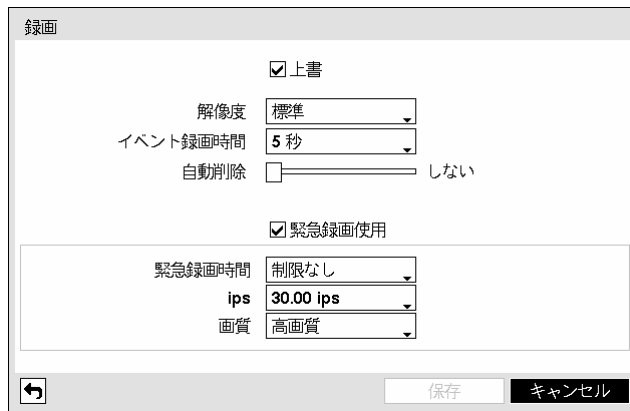



図 50 — 録画設定画面

“上書”を選択した場合、録画ディスクが一杯になるとディスク単位で古いデータから消去され新しいデータが保存されます。“上書”を解除した場合は、録画ディスクが一杯になると録画が中止されます。システム構成 – ディスプレー設定で“残容量”を選択したならば、画面に残容量が表示されます。

“解像度”値を“標準”か“高”のどちらかに設定できます。

参考: 解像度を“高”に設定すると、録画可能速度の合計が半分になります。

“イベント録画期間”を設定できます。イベント発生時の動作で連動録画が指定されている場合、そのイベント録画期間で指定した時間だけ連動録画が実行されます。

“自動削除”を設定すると設定した期間が過ぎたら録画データを削除することができます。削除可能な期間は最小1日より最大99日まで設定でき、自動削除機能を使用したくない場合には“しない”に設定して下さい。例えば、“自動削除”を選択して期間を“30日”に設定すると現在時刻より30日前以降の時刻録画データのみ保存し、それより古い録画データは自動に削除されます。録画データは毎日零時に自動削除され、設定で“自動削除”設定を変更した時にも削除されます。

“緊急録画使用”を選択して緊急録画機能を用いるかどうかを設定できます。

“緊急録画期間”を設定して緊急録画を自動に解除することができます。緊急録画期間は5分~1時間まで設定でき、自動解除機能を使用しない場合は“制限なし”に設定してください。

“ips”と“画質”項目で緊急録画の際の録画速度と画質を設定できます。

“画質”値は、“最高”、“高”、“標準”、“ベージック”に変更できます。

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の (初期化)アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

録画スケジュール設定

録画メニューで“スケジュール”を選択してください。

スケジュール

☑スケジュールオン

番号	曜日	範囲	モード	チャンネル	設定	✖
1	全て	00:00 ~ 24:00		1~16		✖

+ 初期値...

保存 キャンセル

図 51 — 録画スケジュール設定画面

“スケジュールオン”を解除すると、スケジュールに関係なく録画が中断されます。この状況はユーザーが意図的にスケジュールを解除した状況であることを強調するために、各カメラ画面の左上段に アイコンが表示されます。その場合、緊急録画ボタンを押すと 表示と共に緊急録画は遂行されます。

設定画面左下の“+”を押すと、新しいスケジュールが追加されます。

録画スケジュールを設定する“曜日”の選択ができます。“範囲”を選択して望みの時間範囲の選択ができます。

“モード”を“録画しない”に設定することができ、その場合には緊急録画ボタンを押さない限りスケジュール上の該当曜日、時間の範囲の中では録画はされません。

“モード”を“連続録画”に設定すると、画面左上段に が表示され、スケジュールされた時間帯ならば が画面左上段に表示されて録画が進行します。

“モード”を“イベント”に設定すると、画面左上段に赤い が表示され、そのイベントが発生すると が表示されて録画が進行します。プリイベント設定になっていると、イベントが発生せず録画されていない時は黄色い と が表示されます。イベントが発生してプリイベント録画が行なわれている場合は赤い と が表示されます。

“モード”を“時間 & イベント”に設定すると、画面の上に が表示され、時間に合った画質で録画され、イベントが発生すると赤い に変わり、イベントに合った画質で録画されます。

“チャンネル”を選択してスケジュールを適用するカメラを選択できます。

“設定”を選択すると、“ips”と“画質”を設定できます。別途に設定しなければ下図の“初期値…”で設定した初期値に従うようになります。

を選択してスケジュールを削除することができます。

参考: スケジュール上で重複している区間については、下の行のスケジュールが上の行のスケジュールに優先して適用されます。

“初期値…”を選択して連続録画及びイベント録画モードの録画速度及び画質の初期値をそれぞれ設定することができます。各スケジュールに他の設定がない場合“初期値(連続録画及びイベント録画)”に設定されている録画速度及び画質で連続録画及びイベント録画が行われます。

図 52 — 初期値設定画面

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の (初期化)アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

プリイベント録画設定

録画メニューで“プリイベント”を選択してください。プリイベントを設定すると、イベント発生時に指定された期間の時間だけ前の映像を含めて録画します。

図 53 — プリイベント設定画面

もしスケジュール上にイベントモードスケジュールが一つもない場合は、プリイベント録画のためにイベントモードスケジュールをリストに追加せよというアラームメッセージが表示されます。

参考: “時間 & イベント”モードの場合にもアラームメッセージが表示されます。

“番号”を選択/解除して、プリイベントを設定するカメラを選択/解除できます。

録画する“ips”と“画質”を設定できます。

“時間”を設定できます。指定した時間が延びると設定可能な最大ips値が小さくなります。

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の (初期化)アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

イベント設定

図 54 — イベントメニュー

アラーム入力設定

イベントメニューで"アラーム入力"を選択してください。

図 55 — アラーム入力設定画面

"設定"画面で"番号"を選択/解除して、アラーム入力を選択/解除できます。

"タイトル"を選択してからキーボード入力画面を使用してタイトルを入力できます。

"タイプ"を選択してアラームのタイプを変更することができます。

アラームイン発生の場合緊急録画をすることができます。"緊急録画"を選択して連動するアラームインチャンネルを選択することができます。当該アラームインが発生すると緊急録画が始まり、アラームインが解除されると緊急録画も終わります。

アラーム入力

設定 動作 1 動作 2

番号	録画	アラーム出力	通知
1	1	ビープ	
2	2	ビープ	
3	3	ビープ	
4	4	ビープ	
5	5	ビープ	
6	6	ビープ	
7	7	ビープ	
8	8	ビープ	

保存 キャンセル

図 56 — アラーム入力の動作1設定画面

"動作1"及び"動作2"画面では、"設定"画面で選択された番号のみ活性化されています。

"録画"を選択して、アラーム入力発生時に連動録画するカメラを選択することができます。

“アラーム出力”を選択して、実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音を選択することができます。

“通知”を選択して、“メール”、“モデム”、“LAN1~5”、“アラーム画面”などを設定することができます。

- メール: イベント発生時に、設定されたEメールアドレスにイベント発生事実をメールで通知します。
- モデム: 設定された電話番号に電話をかけ、イベント発生事実を通知します。
- LAN1~5: 設定されたインターネット上の最大5ヵ所の遠隔地にイベント発生事実を通知します。“第3章 – システム構成 – 通知設定”部分を参照してください。
- アラーム画面: イベント発生時にイベント状態画面が表示され、イベント発生を具体的に知らせます。“第3章 – システム構成 – システム設定 – 情報設定”の“イベント状態ビュー”部分を参照してください。

参考: 通知(コールバック)機能を使用しようとするとDVRにRASを登録する必要があります。

アラーム入力発生時に、該当するスケジュールが“イベント”か“時間 & イベント”モードに設定されていれば、“録画”項目で設定されたカメラについて連動録画が行われ、“アラーム出力”項目で設定された通りアラーム出力やアラーム音が実行されます。また、“通知”項目で設定された通知機能が実行されます。但し、スケジュール上のチャンネルに設定されているカメラに、“録画”項目で設定されたカメラが含まれていなければなりません。

図 57 — アラーム入力の動作2設定画面

“PTZ”を選択してイベント発生の時、PTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。

“外部モニター”を選択してイベント発生の時に選択した外部モニターに選択したカメラの映像を表示することができます。

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の (初期化)アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

モーション感知設定

イベントメニューで“モーション感知”を選択してください。

図 58 — モーション感知設定画面

“設定”画面で“番号”を選択/解除して、モーション感知機能を設定するカメラを選択/解除できます。

“感度”を選択するとモーション感度の敏感度を設定する画面が表示されます。1(低感度)~5(高感度)の5段階の設定ができ、昼間と夜間を区分して設定することもできます。

図 59 — モーション感知の敏感度の設定画面

各カメラ別に“エリア”を選択すると、画面が16x12区間にブロック分けされたモーション感知エリア設定画面に変わります。エリア設定はモーション感知が行われるエリアをブロック単位で設定します。

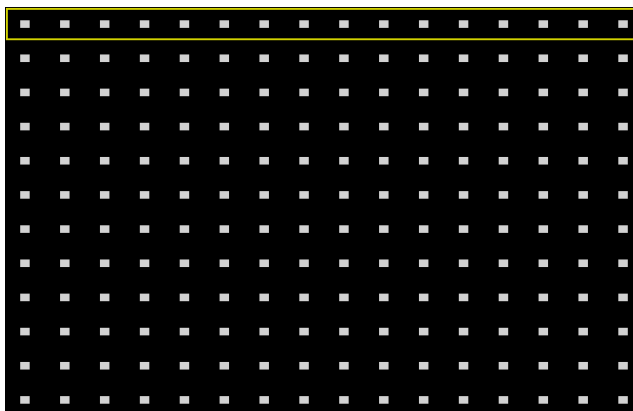



図 60 — モーション感知エリア設定画面

エリア設定画面で矢印ボタンを利用して、ブロック単位のエリア選択画面を上下左右に移動させます。16チャンネルモデルでは選択画面が16個のブロック、8チャンネルモデルでは8個のブロックサイズの一列に該当します。16チャンネルモデルでは1~16カメラボタンで、8チャンネルモデルでは1~8カメラボタンで各ブロックを選択/解除できます。エリア設定モードで ボタンによってエリア設定メニューを呼び出して選択することができます。

エリア設定で、“選択”は一列に該当するブロックを選択し、“解除”は一列に該当するブロックを解除します。“反転”は、一列に該当する選択されたブロックは解除し、解除されたブロックは選択します。“全て選択”は画面全体のブロックを選択し、“全て解除”は画面全体のブロックを解除します。“全て反転”は、画面全体で選択されたブロックは解除し、解除されたブロックは選択します。“決定”は、変更されたブロック設定を保存して、エリア設定を終了します。“キャンセル”を選択すると、変更されたブロック設定を保存せずに、エリア設定を終了します。

図 61 — モーション感知エリアメニュー

“ミニマムブロック”を選択するとモーション感知のミニマムブロックを設定する画面が表示されます。

設定したブロックの個数以上のエリアでモーションが発生したらモーション感知イベントが発生します。昼間と夜間を区分して設定することができます。

図 62 — モーション感知のミニマムブロックの設定画面

“エリアビュー”を選択してモーションに対するDVRの反応を確認することができます。エリアビューモードからは設定したモーション感知エリアが表示され、エリア内のモーション感知は赤色枠で表示されます。

“モーション感知無視間隔”を設定するとモーションが感知された以後、設定した間隔の間に発生するモーションに対してイベントログを残さず遠隔地通報もしません。1秒~10秒または“しない”を選択することができます。

参考: モーション感知無視間隔”を設定してもモーション感知連動録画は録画設定の通り録画します。

“昼間設定...”を選択すると昼間時間範囲を設定する画面が表示されます。

昼間に設定する時間範囲を設定します。時間は15分単位に設定でき、指定した時間範囲の以外は夜間に区分されます。

図 63 — 昼間設定画面

モーション感知

設定 | 動作 1 | 動作 2

番号	録画	アラーム出力	通知
1	1	ビープ	
2	2	ビープ	
3	3	ビープ	
4	4	ビープ	
5	5	ビープ	
6	6	ビープ	
7	7	ビープ	
8	8	ビープ	

保存 キャンセル

図 64 — モーション感知動作1設定画面

“動作1”及び“動作2”画面では、“設定”画面で選択された番号のみ活性化されています。

“録画”を選択して、モーション感知時に連動録画するカメラを選択することができます。

“アラーム出力”を選択して、実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択することができます。

“通知”を選択して、“メール”、“モデム”、“LAN1~5”、“アラーム画面”などを設定できます。

参考: 通知(コールバック)機能を使用しようとする場合、DVRをRASに登録する必要があります。

モーション感知が発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“時間 & イベント”モードに設定されていると、“録画”項目で設定されたカメラについて連動録画が行われ、“アラーム出力”項目で設定されたとおり、アラーム出力かアラーム音が実行されます。また、“通知”項目で設定された通知機能が実行されます。但し、スケジュール上のチャンネルに設定されているカメラに、“録画”項目で設定されたカメラが含まれていなければなりません。

モーション感知

設定 | 動作 1 | 動作 2

番号	PTZ	外部モニター
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

保存 キャンセル

図 65 — モーション感知動作2設定画面

“PTZ”を選択してイベント発生の時、PTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。

“外部モニター”を選択してイベント発生の時に選択した外部モニターに選択したカメラの映像を表示することができます。

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の (初期化)アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

映像信号なし設定

イベントメニューで"映像信号なし"を選択してください。

図 66 — 映像信号なしの設定画面

"設定"画面で"カメラ映像検査"値を"しない"または明るさを1~15の間で設定することができます。明るさが設定した値より少ない場合、映像信号なしに検出されます。これは、手でカメラを覆ったりした場合、映像信号なしと認識するための機能です。

映像信号なし

設定 動作 1 動作 2

番号	録画	アラーム出力	通知
1	...	ビープ ...	...
2	...	ビープ ...	...
3	...	ビープ ...	...
4	...	ビープ ...	...
5	...	ビープ ...	...
6	...	ビープ ...	...
7	...	ビープ ...	...
8	...	ビープ ...	...

保存 キャンセル

図 67 — 映像信号なしの動作1設定画面

"録画"を選択して、映像信号なしが発生した場合に録画するカメラを選択することができます。

"アラーム出力"を選択して、映像信号なしが発生した場合に実行するアラーム出力チャンネルとアラーム音を選択することができます。

"通知"を選択して、"メール"、"モデム"、"LAN1~5"、"アラーム画面"などを設定できます。

参考: 通知(コールバック)機能を使用しようとするとDVRがRASに登録する必要があります。

映像信号無しが発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“時間&イベント”モードに設定されていれば、“録画”項目で設定されたカメラについて連動録画が行われ、“アラーム出力”項目で設定された通りアラーム出力やアラーム音が実行されます。また、“通知”項目で設定された通知機能が実行されます。但し、スケジュール上のチャンネルに設定されているカメラに、“録画”項目で設定されたカメラが含まれていなければなりません。

映像信号なし

設定 | 動作 1 | 動作 2

番号	PTZ	外部モニター
1	...	...
2	...	...
3	...	...
4	...	...
5	...	...
6	...	...
7	...	...
8	...	...

保存 キャンセル

図 68 — 映像信号なしの動作2設定画面

“PTZ”を選択してイベント発生の時、PTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。

“外部モニター”を選択してイベント発生の時に選択した外部モニターに選択したカメラの映像を表示することができます。

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の (初期化)アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

テキストイン設定

イベントメニューで“テキストイン”を選択してください。

図 69 — テキストインの設定画面

各番号の“設定”を選択して該当番号のテキストイン装置を選択することができます。また“設定”タイトルを選択するとポート設定を除いた他の設定を全てのテキストイン装置にできます。

参考: 多くのチャンネルに大量のテキストインが同時に入力されるとシステムの性能に影響を与えるおそれがあります。

“タイトル”を選択するとテキストイン装置のタイトルを設定することができます。

図 70 — テキストイン装置設定画面

“ポート”設定時にRS232とRS485のどちらかを選択でき、その場合PTZやモデム、キーボードコントロールなど別の装置が同一ポートを使用していると、ポート値が重複してその装置は使用できないというアラーム画面が表示されます。

ポートをRS232かRS485のどちらかを選択する場合、ポート設定ボタンが活性化します。“設定”ボタンを押して“ボーレート”、“データ長”、‘ストップビット”、“パリティー”値を正しく設定してください。

参考: USB-シリアルポートを使用する場合、システム稼動中USBケーブルを抜くとテキストイン機能が誤動作する場合があります。

テキストインの“製品”を選択すると、ポート設定の下の部分が該当テキストイン装置に合わせて設定画面が変更表示されます。現在の設定画面の内容は、汎用テキストに関連した設定内容です。

“開始文字列”を選択すると、これに該当する文字列が入力された場合に一つのトランザクションがスタートするものと認識します。開始文字列を“任意文字からスタート”に指定することができます。その場合、どんな文字が入力されても一つのトランザクションがスタートするものと認識します。

“終了文字列”を設定すると、該当する文字列が入力された場合に一つのトランザクションが終わるものと認識されます。終了文字列の前に“0ライン追加”を選択して、1~10の間の値で設定することができます。終了文字列で文字列が入力されてから、ここで設定した追加ラインだけさらに入力されると一つのトランザクションが終わったものと認識します。

“改行文字列”を選択して、行の終りを決定する文字列を入力することができます。コントロール文字は ⇧ を押して ^ に続けて文字を選択すれば入力できます。例えば、Carriage Returnは ^M で、Line Feed(New Line)は ^Jです。

“無視文字列”を選択して、トランザクションを記録する場合に除外する文字列を設定することができます。

“大小文字区分”を選択/解除して、“開始文字列”、“終了文字列”、“改行文字列”、“無視文字列”で設定した文字列が大小文字を区分する/しないを選択できます。

参考: コントロール文字の場合、“大小文字区分”の選択有無は影響しません。

“トランザクションタイムアウト”期間を設定すると最後の文字列が入力されてから設定した時間の間、新しい文字列が入力されないと一つのトランザクションを終了します。時間は5秒~15分まで設定することができます。

テキストイン

設定 | 動作 1 | 動作 2

番号	録画	アラーム出力	通知
1		ビープ	
2		ビープ	
3		ビープ	
4		ビープ	
5		ビープ	
6		ビープ	
7		ビープ	
8		ビープ	

保存　キャンセル

図 71 — テキストインの動作1設定画面

“動作1”及び“動作2”画面では、“設定”画面で選択された番号のみ活性化されています。

“動作1”画面で“録画”を選択して、テキストイン発生時に連動録画するカメラを選択することができます。

“アラーム出力”を選択して、実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択することができます。

“通知”を選択して、“メール”、“モデム”、“LAN1~5”、“アラーム画面”などを設定できます。

参考: 通知(コールバック)機能を使用しようとするとDVRにRASを登録する必要があります。

テキストインが発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“時間＆イベント”モードに設定されていれば、“録画”項目で設定されたカメラについて連動録画が行われ、“アラーム出力”項目で設定された通りアラーム出力やアラーム音が実行されます。また、“通知”項目で設定された通知機能が実行されます。但し、スケジュール上のチャンネルに設定されているカメラに、“録画”項目で設定されたカメラが含まれていなければなりません。

図 72 — テキストインの動作2設定画面

“PTZ”を選択してイベント発生の時、PTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。

“外部モニター”を選択してイベント発生の時に選択した外部モニターに選択したカメラの映像を表示することができます。

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の (初期化)アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

システムイベント設定

イベントメニューで“システムイベント”を選択してください。

図 73 — 動作検査 設定画面

“動作検査”画面で各検査項目の“検査間隔”を設定することができます。“システム”の場合、定期的な自己システムの点検が動作しないと異常と判断します。

"録画エラー"は正常に録画スケジュールが設定されていても、検査間隔以内に全く録画データが無ければ録画エラーに判断します。"スケジュールオン"を選択してから曜日、時間範囲及び検査間隔を設定します。✖を選択すると検査スケジュールを削除することができます。

図 74 — 録画エラー設定画面

"アラーム入力エラー"の場合、アラーム入力が活性化されていても設定された検査間隔の間にイベントが発生しない場合異常であると見なします。

システムイベント
動作検査 HDD 動作
ディスクエラーの通知 50%
ディスクフルの警告通知 90%
ディスク S.M.A.R.T. 設定...
保存 キャンセル

図 75 — HDD設定画面

"HDD"画面でHDDに対するイベント検査項目を選択することができます。

"ディスクエラーの通知"を10~100%まで10%単位で設定できます。全体ディスク容量のうち該当比率以上損傷し、それ以上使用できない場合は"ディスクエラー"というイベントを発生させます。

"ディスクフル警告通知"を80%から99%まで設定することができます。ディスクのデータ容量が設定した%になった場合、イベントを発生させます。

DVRに設置されたIDEハードディスクがS.M.A.R.T.(Self-Monitoring, Analysis and Reporting Technology)モニタリングプログラムをサポートする場合、設置されたIDEハードディスクの状態を表示します。"ディスクS.M.A.R.T."項目の"設定"を選択してS.M.A.R.T.の設定をすることができます。

図 76 — S.M.A.R.T.設定画面

S.M.A.R.T.機能を使用する場合は、“使用する”を選択して活性化させます。“検査時刻”を設定して一ヶ月に一回(毎月)または一週間に一回(毎週)、一日一回(毎日)などによって、S.M.A.R.T.の状態を検査する間隔と時刻を決めることができます。

“温度”を設定して、HDDのうちどれか一つでも温度がこの設定温度値以上となった場合はユーザーに知らせるようにできます。

“前回検査日時”には、最近S.M.A.R.T.の状態を検査した時期を表示します。

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の (初期化)アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

システムイベント

動作検査 | HDD | 動作

イベント	アラーム出力	通知
システム		
緊急録画		
録画エラー	ビープ	⚠
アラーム入力エラー	ビープ	⚠
ディスクがほぼフルになります。	ビープ	⚠
ディスクフル	ビープ	⚠
ディスクエラー	ビープ	⚠
ディスク温度	ビープ	⚠

保存　キャンセル

図 77 — システムイベントの動作設定画面

“動作”画面で“アラーム出力”を選択して、各イベント発生時に実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音を選択することができます。ただし、“システム”と“緊急録画”イベントの場合“アラーム出力”は選択できません。

“通知”を選択して、“メール”、“モデム”、“LAN1~5”、“アラーム画面”などを設定できます。ただし、“システム”イベントの場合“メール”のみ設定することができます。こうして選択されたところに該当するイベントが発生した場合は通知が伝達されます。

参考: 通知(コールバック)機能を使用しようとするとDVRがRASに登録する必要があります。

設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下の (初期化)アイコンを選択すると、設定値が初期値に戻ります。

イベント状態表示

イベントメニューで“イベント状態”を選択して下さい。

図 78 — イベント状態の画面

現在のいろいろなイベントの状態を調べることができます。イベントが発生したところは目立つように表示されます。イベントが発生してから5秒間点滅するので瞬間のイベントも簡単に把握できます。

アラーム入力の設定で、設定したとおりにアラーム入力イベントが発生した場合、該当“アラーム入力”チャンネルが黄色で強調されます。そして“モーション感知”、“映像信号なし”、“テキストイン”項目は、それぞれモーション感知設定、映像信号なし設定、テキストイン設定で設定した通りにイベントが発生した場合、該当チャンネルや項目が黄色で強調されます。また、“アラーム入力エラー”、“録画エラー”項目は、システムイベント設定によってイベント状態が表示されます。“緊急録画”項目は緊急録画を行っているとイベント状態が表示されます。“ディスクがほぼフルになります”項目と“ディスクフル”項目は“上書”モードに設定されていない場合、使用できます。

“イベント状態”設定画面で“HDD”タブを選択して現在のHDDの状態を調べることができます。これについては本取扱説明書“第3章 – 設置 – HDDの設定”部分を参照してください。

第4章 — 運営

DVRの動作はVCRと似ており、VCRと同様にビデオを録画して再生することが主要機能です。しかし、ビデオを録画して再生することの他に、もっといろいろな機能を提供します。時間別、曜日別に録画スケジュールを設定することができ、多様な方法で録画されたデータを検索できます。また、VCRでは出来なかった遠隔制御、遠隔監視、録画された映像を再生しながら同時に現在の映像を録画、プリンターに映像出力するなどのような付加的な機能を提供します。

ボタンとマウスの使用方法などについては、第3章– システム構成 – メニューの使用方法に説明されています。

電源を入れる

"第2章 – 設置"の説明の通りDVRを設置すれば、記録する準備は完了です。装置に電源をつなげばシステムが起動します。

リアルタイム監視

DVRが初期化過程を完了すると、直ちに接続されているモニターとスピーカーによって監視画面が表示され、オーディオが聞こえます。工場出荷時の基本モードは、全てのカメラを一画面に表示するようになっています。カメラのボタンを押すと、該当カメラの映像を全画面に表示します。

リアルタイム監視モードで前面パネルのカメラ番号ボタンを押すと、該当チャンネルだけ表示する全画面に切り替わります。リアルタイム監視モードで前面パネルの分割表示ボタンを押すと、PIP → 4 → 9 → 16画面に順番に切り替えられ、グループボタンを押すと、次のページに移動します。

また、PIP画面で上下矢印ボタンによってサブ画面の位置を移動させることができます。さらに、左右矢印ボタンによってサブ画面のサイズを大きく/小さく調節できます。

画面グループ編集機能

画面グループ編集モードは、監視画面(PIP、4、9、16画面)や4画面以上の検索モードで、自分の望む配置でカメラ映像 を見ることができるように設定する機能です。

PIP、4、9、16 画面でカメオボタンを2秒以上押すと、画面グループ編集モードがスタートします。画面上に黄色い枠線が現れます。枠線は矢印ボタンやマウスを利用して、カメラ画面を選択でき、別のカメラ画面を選択でき、別のカメラボタンを押すと、選択されたその位置にボタンを押したカメラ画面が表示されます。もし、ボタンを押したカメラがその画面で表示していない画面ならば、選択された位置は、ボタンを押したカメラ 映像が表示されます。その場合、画面が交換することはありません。そして、ボタンを押したメラがその画面に表示されている画面ならば、選択されたカメラと位置が入れ替わります。このような方法によって各画面に望みのカメラ番号を配置することができます。画面グループ編集モードでもう一度 ボタンを押すと、画面グループ編集モードから抜け出ます。あるいはメニュー/カメラボタンを押し、カメラメニュー表示される"グループ編集から出て行く"を選んでグループ編集モードから抜け出ます。画面グループ編集モードは、操作のない場合約15秒で終了します。

フリーズ

リアルタイム監視モードで前面パネルの (再生/一時停止)ボタンを押すとボタンのLEDが点いて、画面が停止します。システム構成 – ディスプレー設定で“フリーズ”を選択し活性化していると、画面左下に が表示されます。

フリーズ状態でもう一度 ボタンか別のボタンを押すと、フリーズ状態が解除されます。但し、メニュー、アラーム、緊急録画ボタンは押してもフリーズ状態はそのままです。

拡大機能

拡大機能は、リアルタイム監視モードでのみ作動します。システム構成 – ディスプレー設定で“拡大”を選択して活性化させると、拡大モードで アイコンが表示されます。

ズームボタンを押し拡大して見るカメラを選んでください。一画面だけ見える全画面モードでは、現在の画面が自動的に選択されます。カメラを選択すると全画面に転換され、右下に拡大する位置を設定する画面が表示されます。矢印ボタンを利用し、拡大して見る位置を変更することができます。 ボタンを押すと、映像が2倍に拡大されます。拡大画面を抜け出すには、もう一度ズームボタンを押してください。

色調整

各カメラボタンを長く押していると、色調整画面が表示されます。ここでは各カメラの明るさ、コントラスト、彩度、色調を調整することができます。

参考: ここで変更した色調整のとおりの映像が監視されるだけでなく録画されます。

自動切替

グループ/シーケンスボタンを2秒以上押すと、自動切替がスタートします。自動切替にはフル切替とカメオ切替があります。

“フル切替”モードを選択すると、監視モードの全画面、4、9画面で全てのチャンネルが順番に切り替わって表示され、PIP画面では全画面チャンネルを除いた残りのチャンネルがサブ画面に順番に切り替わって表示されます。フル切替機能を使用するためには、システム構成 – ディスプレー設定の自動切替設定で“フル切替”を選択してください。

“切替”モードでは、監視モードの4、9、PIP画面で、右下の一画面だけ別の画面に変わり続くようになります。切替機能を使用するためには、システム構成 – ディスプレー設定の自動切替設定で“切替”を選択してください。

参考: “フル切替”で動作中ならば、画面左下の自動切替表示の横にページ番号が表示されます。ページを構成している全てのカメラが(PIP画面ではサブ画面が)不活性化状態か、映像信号なしか、隠しカメラなら(そしてそのカメラを見る権限のないIDでログインしたならば)、該当ページを飛ばすようになります。

自動切替をストップさせたい場合は、もう一度グループ/シーケンスボタンを2秒以上押してください。

イベントモニタリング機能

システム構成 – ディスプレー設定で“イベントモニタリング”が選択選択されていたら、イベントが発生した場合はイベントが連動録画されるカメラの画面だけ表示する状態に自動的に切り替わります。

イベントモニタリングはイベント録画時間の分割表示にされ、続いて新しいイベントが発生しなければ、イベントモニタリング画面に転換する前の画面に戻ります。

イベントモニタリングの状態でイベント録画時間が経過する前でも分割表示ボタンを押したりカメラ番号ボタンを押すと、その監視画面に切り替わります。

隠しカメラ機能

カメラ設定で特定カメラを“隠し1”に設定すると、ユーザーがログインしていないか、“隠しカメラビュー”権限のないユーザーでログインした場合、監視画面で該当カメラの映像は表示されなくなります。しかし、該当カメラのタイトルと現在の状態を示すアイコンは正常に表示されます。

カメラ設定で特定カメラを“隠し2”に設定すると、ユーザーがログインしていないか、“隠しカメラビュー”権限のないユーザーでログインした場合、該当カメラがoff設定のように表示されます。すなわち、カメラ映像はもちろん表示されず、カメラタイトルはグレーになり、各種の状態アイコンも表示されなくなります。

“隠しカメラビュー”権限を持ったユーザーがログインした場合には、カメラが“隠し1”か“隠し2”に設定されていても隠し機能が適用されず、映像だけでなく状態アイコンも表示されます。

外部モニター監視機能

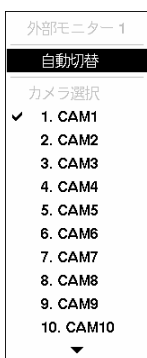
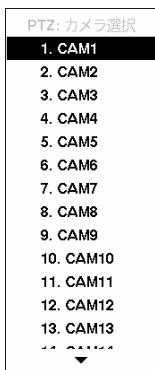
外部モニターに表示される画面を、ユーザーが望むカメラの映像に設定することができます。前面パネルの外部モニターボタンを2秒以上押していると外部モニタの選択のメニューが現れます。

“自動切替”を選択する場合、外部モニターで自動切替が行われるようになります。カメラ番号を選択するとモニタに選択したカメラの映像を表示します。これを解除する方法は、設定する方法と同じです。カメラが選択されていない設定、映像信号なしや隠しカメラ設定であれば(そして隠しカメラを見る権限がなければ)、そのカメラは自動切替の対象から除外されます。システム構成 – ディスプレー設定で自動切替モードの場合に映像が切り替わる時間の間隔を決めることができます。

図 79 — 自動切替メニュー

PTZ制御

PTZドームカメラをDVRで使用するためには、背面のRS485かRS232端子のうちカメラがサポートするものをカメラに正しく接続してください。そして、その端子をカメラ設定で説明したように正しく設定してください。

監視モードで現在の監視画面上にPTZカメラがある場合、前面パネルのカメラ操作ボタンを2秒以上押すと、PTZカメラを選択する画面が表示されます。

望みのPTZカメラを選択してください。その場合、該当カメラのOSD画面にPTZアイコンが点滅します。現在の監視画面上にPTZカメラがない場合には、それを知らせるメッセージ画面が表示されます。再びカメラ操作ボタンを押すとPTZモードから出ることができる。

PTZモードでは、矢印ボタンによってPTZカメラの上/下/左/右移動(Pan, Tilt)機能を調整でき、カメラ1番や2番ボタンによって拡大と縮小機能を、3番や4番ボタンによっては近距離と遠距離焦点機能を調整することができます。

図 80 — PTZカメラ選択メニュー

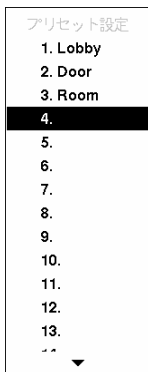
参考: PTZカメラを操作するためには、"PTZ制御"の権限を持ったユーザーでログインしてください。

PTZモードでカメラ6番ボタンを押すと、"プリセット設定"設定画面が表示され、現在位置を望みのプリセット番号に保存することができます。

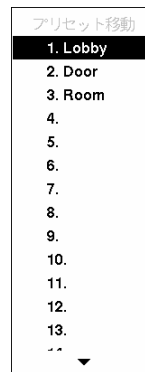
図 81 — プリセット設定画面

PTZモードでカメラ5番ボタンを押して"プリセット移動"設定画面が表示されたらプリセット番号を選択し、その番号に保存された位置にPTZカメラをすぐ移動させることができます。

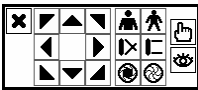
図 82 — プリセット移動設定画面

PTZモードで"メニュー"ボタンを押すと下記の通りPTZメニューが表示されます。

速度、自動巡回などのPTZカメラが支援する機能を使用できます。

図 83 — PTZメニュー

参考: PTZカメラが支援しない機能は選択できません。

PTZモードでマウスを用いて簡単にPTZカメラを操作することができます。PTZモードでマウスのカーソルを画面の下に位置させば下図のようなPTZ制御ボックスが表示されます。

PTZ制御ボックスの をクリックするとPTZ制御ボックスが消えます。 アイコンの下をクリックしてからドラッグ＆ドロップしてボックスの位置を変更できます。

矢印アイコンをクッリクしてPTZカメラを上/下/左/右などの8個方向に移動させせることができます。各アイコンの機能は下記の通りです。

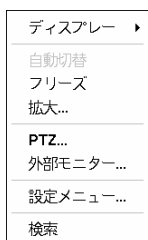
拡大/縮小　　近距離/遠距離焦点調整
しぼり開/閉　　プリセット設定/移動

PTZモード状態でマウスの右ボタンをクッリクして速度や自動回転などの該当PTZカメラが支援する拡張機能を使用することができます。詳しい内容はリアルタイム監視 – PTZ制御部分を参考して下さい。

マウスの使用

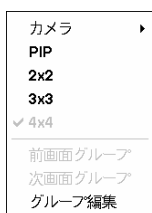
リアルタイム監視画面で、マウスを利用して分割画面モードで特定カメラの画面をクリックすると、そのカメラ画面だけ表示される全画面に切り替わります。全画面でどこでももう一度クリックすると、以前の分割画面に切り替わります。

分割画面モードでマウスホイールを(上)下に回すと、分割表示ボタンを押すのと同じようにPIP → 4 → 9 → 16画面(逆)順に画面構成が切り替わります。

リアルタイム監視画面でマウスの右ボタンをクリックすると、下のようなリアルタイム監視メニューが表示されます。

"フリーズ"、"PTZ…"、"外部モニター…"などを選択して、フリーズ、PTZ制御、外部モニター調整など上で説明した機能を遂行することができます。

"拡大…"を選択して拡大画面を見ることができます。拡大画面モードで明るい部分をクリックすると拡大された映像を確認することができます。そして、拡大画面をクリックしたままでマウスカーソルを動かすと、拡大画面がマウスカーソルについて移動します。

図 84 — マウスメニュー

"ディスプレー"を選択すると、下のようにメニューが拡張されます。

"カメラ"で特定のカメラを選択するとカメラボタンを押したように該当のカメラ画面がフル画面に切り替えます。PIP、2x2、3x3、4x4などを選択すると該当の画面に切替されます。PIP画面でマウスの右ボタンをクリックしてから"PIP"を選択してPIPモードに出る小さな画面の位置とサイズを設定することができます。

"前画面グループ"を選択すると前のページに移動します。"次画面グループ"を選択すると、前面パネルのグループ矢印を押したのと同様に、次のページに移動します。

"グループ編集"を選択して画面グループ編集機能を使用することができます。"グループ編集"を選択してから変更するカメラ画面を選択します。そして、マウスの右ボタンをクリックすると表示されるメニューで別のカメラを選択すると、前で選択したカメラ画面が今選択したカメラ画面に入れ替わるようになります。

図 85 — マウスディスプレーメニュー

映像録画

“第2章 – 設置”部分で説明した通り、DVRを設置すると録画ができます。

いつ録画するかについての設定は、“第3章 – システム構成 – 録画スケジュール設定”部分で説明されています。また、プリイベント機能を利用する場合は、“第3章 - システム構成 – プリイベント設定”部分を参照してください。録画モードの設定については、“第3章 - システム構成 – 録画設定”部分に詳しく説明されています。ここでは幾つかの設定について簡略に説明します。

ハードディスクが一杯になった場合、中止するか上書きすることができます。初期設定は“上書”に設定されており、最も古い録画から上書きします。“上書”を解除するとディスクが一杯になった場合録画が中止されます。

録画解像度を“標準”または“高”に設定することができます。“標準”の場合、120枚の映像を録画でき、“高”の場合、60枚の映像を録画することができます。

緊急録画機能

監視モードで緊急録画ボタンを押すと、活性化した全てのカメラで緊急録画が行われます。その場合、画面の各カメラ画面には感嘆符の形の アイコンが表示されます。この緊急録画は、ユーザーが設定した録画スケジュールに関係なく実行されます。

緊急録画状態では、システム構成 – 録画設定で緊急録画のために設定されたipsと画質で録画がおこなわれます。

緊急録画状態でもう一度緊急録画ボタンを押すと、緊急録画モードは解除されます。システム構成 – 録画設定で“緊急録画期間”が設定されている場合、設定された時間の通り緊急録画後自動に緊急録画モードが解除されます。

オーディオ録音

システム構成 – 録画設定でDVRのオーディオ録音が設定されていれば、その設定の通りビデオが録画される時にオーディオも録音されます。

参考: オーディオ録音は連動されたチャンネルのビデオが秒当り1枚以上保存される場合にだけ録音が正常に行われます。

注意: オーディオを録音する場合には、全ての関連法規と条例を確認してください。

保存映像の再生

再生モードに入るためには、“検索”の権限を持ったユーザーでログインしてください。“隠し”に設定されたカメラがある場合、隠し機能が再生モードでも同じように適用されます。

参考: レコーディングをしながら映像を再生する場合、映像が普段の再生のスピードより遅くなることもあります。

再生モードに入る方法はいろいろあります。まず、前面パネルの再生モードボタンを押すと、再生モードに入ります。再生モードの初期位置は前に最後に再生した部分か、保存された最後の部分です。再生モードボタンを再び押すと再生を終了します。そして、各種のイベント検索によっても再生モードに入ることができます。

再生モードでも画面グループの編集設定はそのまま維持され、監視画面のように設定することもできます。PIPモードは再生モードでサポートしていません。それ以外の別の多重分割画面モードは、再生モードでもリアルタイム監視モードのように使用できます。

カメラボタン

カメラボタンを押すと該当カメラの映像を全画面で見ることができます。

矢印ボタン

◀◀ 矢印ボタンは押すと、録画された映像が逆に高速で再生されます。もう一度押すと ◀◀◀ の速度で、もう一度押すと ◀◀◀◀ の速度で再生されます。

▶▶ 矢印ボタンを押すと、録画された映像が高速で再生されます。もう一度押すと ▶▶▶ の速度で、もう一度押すと ▶▶▶▶ の速度で再生されます。

一時停止状態から ▶ 矢印ボタンを押すと一番最後の画面に移動します。反対に ◀ 矢印ボタンを押すと一番最初の画面に移動します。

再生/一時停止ボタン

ボタンを押すたびにビデオを再生させるか一時停止させます。

メニュー/カメラボタン

メニュー/カメオボタンを2秒以上押すと、画面グループ編集モードになります。画面グループ編集モードになると選択されたカメオに黄色の枠ができ、矢印ボタンを利用してカメオの選択を変更することが可能です。カメオを選択してから使用しようとするカメラ番号のボタンを押すと選ばれたカメラの映像を該当カメオに見せます。 ボタンを押し、画面グループ編集モードから出てきます。あるいはメニュー/カメオボタンを押し、カメオメニューが表示されたら"グループ編集終了"を選んでグループ編集モードから出ます。

参考: カメオとは分割画面での各カメラの映像を表示した各々の画面のことです。カメオモードからカメラ映像をお客様のお好みの位置に配置し、カメラグループを編集することができます。

再生モードボタン

再生モードボタンを押すと、再生モードになります。再びボタンを押すと 再生モードから出てきます。再生モードになるとビデオは一時停止し、 ボタンを押すと再生を再度始めます。一時停止モードからは画面に ‖ の印が、再生中には画面にも ▶ が表示されます。

ズーム/カメラ操作ボタン

ズームボタンを押して再生画面を拡大して再生ができます。

分割表示/外部モニターボタン

分割表示/外部モニターボタンを押すとPIP → 4 → 9 → 16画面に変わります。分割表示/外部モニターボタンを2秒以上押すと外部モニターに出力されるカメラを選択することが出来ます。

グループボタン

グループボタンを押すと、現在の画面グループから次の画面グループに移動し、ページ番号が画面に表示されます。

マウスの使用

再生モードでマウスを使用するとより便利に操作できます。マウスポインターを再生画面下段に移動すると、下図の様なツールバーが表示されます。

ツールバーの左の ✖ をクリックすると、ツールバーが消えます。マウスポインターを検索画面下段に移動するともう一度ツールバーが現れます。ツールバーの右の空いた部分をクリックしてからドラッグしてツールバーの位置を変更することができます。

ツールバーの各ボタンの機能は以下の通りです。

- ⏮ 最初の映像に移動
- ⏪ 高速逆再生
- ◀❙ 前の映像に移動
- ▶ 再生/一時停止
- ❙▶ 次の映像に移動
- ⏩ 高速再生
- ⏭ 最後の映像に移動

オーディオ再生

システム構成 – オーディオ設定 でオーディオ録音を設定したならば、該当カメラの映像が保存される時に該当チャンネルのオーディオも録音されます。該当カメラを全画面で再生する場合だけ、録音されたオーディオがオーディオアウトから出るようになります。

映像検索

再生モードで前面パネルのメニューボタンを押すか、マウスの右ボタンをクリックすると、次のような検索メニューが表示されます。

参考: レコーディング中に検索した映像を再生する場合、再生スピードが少々遅くなることもあります。

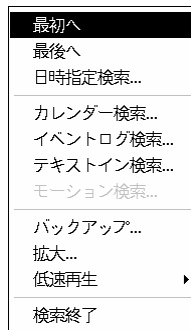



図 86 — 検索メニュー

"最初へ"を選択すると録画された映像の最初の画面に移動し、"最後へ"を選択すると録画された映像の最後の画面に移動します。

"日時指定検索"を選択すると、日時で録画映像を検索できます。

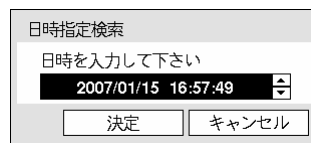



図 87 — 日時指定検索画面

"バックアップ…"を選択すると、バックアップ設定画面が表示され、バックアップが行えます。

"拡大"を選択して再生画面を拡大することができます。

"低速再生"を選択すると再生画面を遅くできます。(x1/2、x1/3、x1/4、x1/6、x1/8)

"検索終了"を選択すると、検索モードから抜け出してリアルタイム監視モードに戻ります。

カレンダー検索

検索メニューで"カレンダー検索"を選択すると、下のようなカレンダー検索画面が表示されます。カレンダー検索画面で録画された映像がある日付が下のように画面に表示され、その日付だけ選択できます。

図 88 — カレンダー検索画面

選択された日付の時間帯別録画記録が表示され、1時間単位で特定時間帯を選択できます。選択を終えてから“移動”ボタンを選択すると、選択された日時に該当する映像が画面に停止状態で表示されます。

参考: 現在表示されている画面には、録画された映像がないこともあります。その場合、分割表示ボタンを押して16分割画面に切り替えると、該当時間帯の映像が保存された画面を簡単に探すことができます。

ユーザーが時刻設定を遅らせて録画する場合、同一時間帯に一つ以上の映像があるようになることがあります。その場合、“セグメントを選択してください”を選択し、どちらで検索するか指定することができます。時間重複の録画映像に関する詳しい内容は“付録 D – 時間重複”を参考して下さい。

参考: セグメントの番号が小さいものが後に録画したデータです。

イベントログ検索

検索メニューで“イベントログ検索”を選択すると、下のようなイベントログ検索画面が表示されます。検索されたイベントログリストで、右下の矢印によってリスト上で上下に移動できます。

イベントログ検索

時間	タイプ	タイトル
2007/01/15 17:07:32	映像信号なし 2	CAM2
2007/01/15 17:07:31	映像信号なし 5	CAM5
2007/01/15 17:07:28	映像信号なし 4	CAM4
2007/01/15 17:07:28	映像信号なし 3	CAM3
2007/01/15 17:07:27	映像信号なし 1	CAM1
2007/01/15 17:07:13	アラーム入力 16	
2007/01/15 17:07:13	アラーム入力 15	
2007/01/15 17:07:13	アラーム入力 14	
2007/01/15 17:07:13	アラーム入力 13	
2007/01/15 17:07:13	アラーム入力 12	

条件...

閉じる

図 89 — イベントログ検索画面

イベントログ検索画面で特定イベントを選択すると、連動録画が行われたチャンネルの選択日時に該当する映像が画面に一時停止状態で表示されます。カレンダー検索でのように現在の画面に録画された映像がない場合には、16分割画面で録画された映像のある画面を簡単に探すことができます。

また、アラーム出力状態ではない時にアラームボタンを押してイベントログを検索することもできます。登録されたユーザーでログインしていれば、イベントログ検索画面を表示するために特別に必要なユーザー権限はありません。もちろん、検索するためには“検索”権限を持ったユーザーでログインしてください。

イベントログ検索画面で左下の“条件…”を選択すると、“イベントログ検索条件”の設定画面が表示されます。

図 90 — イベントログ検索条件の設定画面

“開始”で“始め”を選択すると、保存されたデータのうち最初の時刻で設定され、“終了”で“終わり”を選択すると、保存されてデータのうち最後の時刻で設定されます。“始め”や“終わり”のチェック表示を外すと、検索する期間を直接変更できます。

“開始”または“終了”時間をユーザーが指定する場合には、“時間重複検査”を選択/解除できます。“時間重複検査”が選択されていなければ、システムの使用途中でシステム時間が変更され、ユーザーが指定した“開始”時間が二ヶ所以上ある場合、そのどちらかを選択せよという画面が表示され、やはりユーザーが指定した“終了”時間が二ヶ所以上ある場合、そのどちらかを選択せよという画面が表示されます。そして、ユーザーが選択した“開始”と“終了”時間帯に発生したイベントだけが検索され表示されます。そうでなく“時間重複検査”が選択されれば、全ての“開始”、”終了”時間帯に発生したイベントを検索します。

“アラーム入力”でアラーム入力イベントを検索するアラーム入力チャンネルを選択します。

“モーション”でモーション感知を検索するカメラチャンネルを選択します。

“映像信号なし”で映像信号なしのイベントを検索するカメラチャンネルを選択します。

“テキストイン”でテキストインのイベントを検索するチャンネルを選択します。

“録画チャンネル”でイベントを検索する録画チャンネルを選択します。ここで設定された録画チャンネルのうち、一つでも連動録画が発生したイベントのみ検索します。どのカメラも選択しなければ、連動録画カメラが一つもないイベントのみ検索します。

“緊急録画”、“録画エラー”、“アラーム入力エラー”、“ディスクがほぼフルになります”、“ディスクエラー”、“ディスク温度”、“ディスクS.M.A.R.T.”などのシステムイベントを検索する際に含めるかどうかを設定できます。

テキストイン検索

検索メニューで“テキストイン検索”を選択すると、下のようなテキストイン検索画面が表示されます。

イベントリストで特定イベントを選択すると、選択された日時に該当する映像が画面に停止状態で表示されます。カレンダー検索と同様に現在の画面に録画された映像がない場合には、16分割画面で録画された映像のある画面を簡単に探すことができます。

参考: 1倍速再生時には、画面にテキストイン情報が重複して表示されます。別の速度では表示されません。

テキストイン検索

時間	トランザクション
2007/01/15 16:38:08	=====================================
2007/01/15 16:38:08	Pan cake | $ 3.15 | 1(s) | $ 3.15
2007/01/15 16:38:07	7 Up | $ 1.80 | 1(s) | $ 1.80
2007/01/15 16:38:07	Coke | $ 2.20 | 1(s) | $ 2.20
2007/01/15 16:38:06	Item Unit price Qty amount
2007/01/15 16:38:06	=====================================
2007/01/15 16:38:05	abc Market 2003.01.01 AM 09:00
2007/01/15 16:38:05	=====================================
2007/01/15 16:38:04	Test.Inc
2007/01/15 16:38:04	=====================================

条件...

閉じる

図 91 — テキストイン検索画面

左下の“条件...”を選択すると、テキストイン検索で検索する条件を設定することができます。

テキストイン検索条件

開始 ☑始め 2007/11/15 19:10:53

終了 ☑終わり 2007/11/15 19:10:53

チャンネル 1~16

汎用テキスト

番号	–	名前	比較演算子	値	コラム	列
					0	0
					0	0
					0	0
					0	0
					0	0

+ ☐大小文字区分

取込 保存 決定 キャンセル

図 92 — テキストイン検索条件設定画面

“開始”で“始め”を選択すると、保存されたデータの最初の時刻で設定され、“終了”で“終わり”を選択すると、保存されたデータの最後の時刻で設定されます。“始め”や“終わり”のチェック表示を外すと、検索する期間を直接変更できます。

検索するテキストイン“チャンネル”を選択することができます。

テキストイン装置を選択して汎用テキストのようなテキストイン装置のタイプを選択することができます。現在の設定画面の内容は、汎用テキストに関した検索設定内容です。

“+”を選択して検索変数設定を追加することができます。右側の✖を選択して当該項目及び全体項目を削除することができます。検索変数設定の詳細内容は“付録B – テキストイン検索”をご参照ください。

“大小文字区分”を選択/解除すると、検索する際に単語の大小文字を区別する/しないを設定できます。

“取込”を選択して保存された検索条件設定値を読み込むことができます。

“保存”を選択して現在検索条件設定値を保存することができます。仮想キーボードを利用して検索条件名を入力します。

設定が終わってから“検索”を選択すると、検索後に“テキストイン検索”の設定画面に戻ります。

モーション検索

一画面の再生時のみ、検索メニュー上に“モーション検索”メニューが活性化されて選択でき、別の画面モード(4、9、16分割)では不活性化されて選択できません。検索メニューで“モーション検索”メニューを選択すると、“モーション検索”設定画面が表示されます。

モーション検索

1. CAM1

2007/01/15 13:07:22

番号	時間
12	2007/01/15 13:07:13
13	2007/01/15 13:07:14
14	2007/01/15 13:07:15
15	2007/01/15 13:07:16
16	2007/01/15 13:07:17
17	2007/01/15 13:07:18
18	2007/01/15 13:07:19
19	2007/01/15 13:07:20
20	2007/01/15 13:07:21
21	2007/01/15 13:07:22

条件...

閉じる

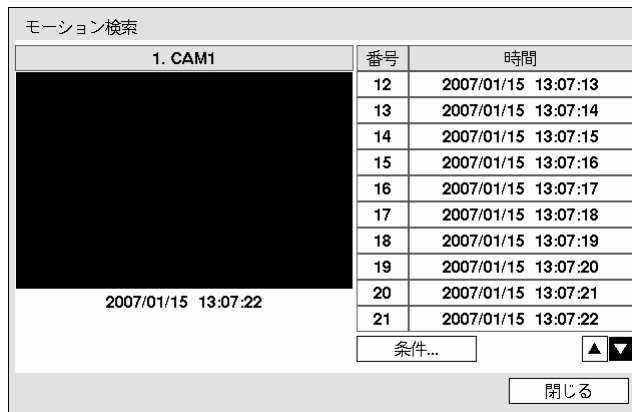



図 93 — モーション検索画面

“条件…”を選択すると、モーション検索で検索する条件を設定することができます。

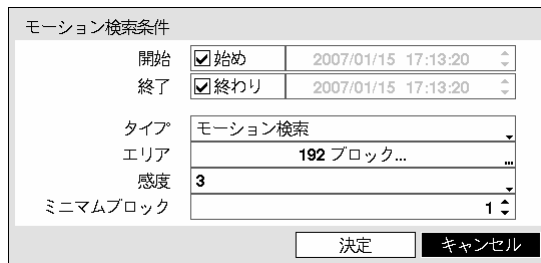



図 94 — モーション検索条件の設定画面

“開始”で“始め”を選択すると、保存されたデータの最初の時刻で設定され、“終了”で“終わり”を選択すると、保存されたデータの最後の時刻で設定されます。“始め”や“終わり”のチェック表示を外すと、検索する期間を直接設定できます。

“タイプ”で“モーション検索”や“オブジェクト検索”のどちらかに設定できます。“モーション検索”はすぐ前の映像と比較して、選択されたエリアでの変化を探します。すなわち、持続的な変化にもかかわらず変化がとても遅い場合は感知しません。反対に“オブジェクト検索”は、“開始”に設定された日時の映像と比較して、選択されたエリアでの変化を探します。従って、とても遅い変化であっても“開始”に設定された時と比較してある程度以上変化したら、その変化は感知されます。

“エリア”設定は、システム構成－モーション感知設定でエリアを設定する方法と同じです。

参考: “オブジェクト検索”のエリアを設定する場合、対象物のへり部分をエリアに含めるとうまく検索されない恐れがあります。正確な検索のためにできるだけ対象物のへりの内側を検知エリアに設定してください。

“感度”を1(低感度)~5(高感度)の間で設定でき、“ミニマムブロック”も設定できます。“ミニマムブロック”設定は“タイプ”で“モーション検索”を選択した時のみ使用できます。

条件設定を終えてから“検索”を選択すると検索を開始します。検索中に“中止”を選択すると検索が中止されます。

モーション検索設定の右側のリストに表示される検索結果のうちの一つを選択すると、左側に該当時間に録画された映像が表示されます。該当映像を再生する場合、“閉じる”ボタンを選択して下さい。

別のカメラの全画面モードに切替えて“モーション検索”を選択すると、以前のモーション検索結果が消えるというアラームメッセージが表示されます。その場合、“結果削除”を選択すると以前の検索結果が消え、“キャンセル”を選択すると以前の検索結果が検索結果リストに表示されます。

バックアップ

検索メニューで“バックアップ”を選択してください。またはライブ監視または再生モードでバックアップボタンを押してバックアップを始めることができます。

ライブ監視モードでバックアップボタンを押すと、すぐ“バックアップ”設定窓が表示され“開始”と“終了”時刻を設定することができます。

再生モードでバックアップボタンを押して任意の二つの時点を設定してその間の録画データをバックアップすることができます。映像再生中バックアップボタンを1回押すと1番目の時点が設定されカメラ左下位置にアイコンが表示されます。再び一度バックアップボタンを押すと2番目の時点が設定されバックアップ設定窓が表示されます。指定した二つの時点の範囲が“開始”と“終了”時刻に自動に設定されます。

ライブ監視または再生モードでバックアップボタンを2秒以上押すとワンタッチモードでバックアップ設定窓を表示することができます。ワンタッチモードではいつも最新録画データを終了時刻に設定し保存ドライブの空容量によって開始時刻が自動的に計算されます。

図 95 — バックアップ設定画面

“データベース – 録画”はセーブされた映像をローカルのセーブ空間にコピーすることを意味します。

“チャンネル”でどのカメラの映像を保存するのかを選択してください。“パスワード”を登録すると、このファイルを再生する時、パスワードの入力が必要になります。パスワード使用するかどうかを選択しパスワードを設定して下さい。“メディア選択”で保存するメディアを選択してください、“ファイル名”を選択して保存するファイル名を設定してください。最高63字まで入力できます。

参考: ファイル名を設定する場合、\、/、:、*、?、“、<、>、| などの文字は使用できません。

“テキストインのデータ含み”を選択すると当該録画映像のテキストイン情報がある場合、テキストイン情報を映像と共に保存します。

“書き込まれたデータ検査”を選択するとバックアップが終わってからCD-RW及びDVD RWにバックアップデータが正常に書き込まれてあるか検証します。

参考: CD-RW及びDVD RWに保存する場合、録画速度に影響を与えることもあります。

参考: “CD-RW及びDVD RWドライブのソフトウェアを更新して下さい”というメッセージが表示された場合、第3章 – システム構成 – システム情報設定部分を参考してCD-RW及びDVD RWソフトウェアをアップデートしてください。

“開始”を選択すると指定した保存範囲のバックアップするデータ容量を計算して表示します。ただし、ワンタッチバックアップモードでは保存媒体の容量に合わせて保存範囲が自動に設定されます。また選択した保存媒体に空き容量が足りない場合には空き容量に合わせてバックアップすることができます。時間範囲と容量を確認してから“継続”を選択するとバックアップが始まります。バックアップが開始されると、“キャンセル”を押してバックアップをキャンセルでき、“閉じる”を押して画面を隠すことができます。“閉じる”を選択してもバックアップは続けられ、作業が完了するとそれを確認する画面が表示されます。

バックアップで作ったファイルをWindows上で実行して、保存された動画を再生することができます。再生方法に関する詳しい内容は、RASの取扱説明書をご覧ください。

参考: USB保存メディアの場合、外部でFAT32に初期化されたものを使用してください。USB IDEハードディスクをFAT32に初期化して使用する方法は、"付録 A – USBハードディスクの設定"部分に説明されています。

参考: DVD RWドライブの場合、4.7GB容量のメディアのみ使用できます。既に使用されているメディアに保存する場合には、使用容量が4GB未満なら空いている領域に4.7GBまでバックアップできますが、使用容量が4GB以上なら空いている領域があってもバックアップできません。

参考: バックアップのためのファイルサイズは2GB以下に制限されます。2GBを超える場合には保存範囲を調節してファイルサイズを減らしてください。

注意: USBバックアップの途中でUSBケーブルを抜いたり、USB装置の電源を切らないでください。もし、バックアップの途中でケーブルが抜けたり装置の電源が切れた場合、DVRシステムが誤動作や外付USB装置のファイルシステムが損傷して、再度アーカイブを試みる場合にアーカイブができないというエラーメッセージが表示されることがあります。このエラーメッセージを取り除くには、DVRを終了させて再起動させなければなりません。もし、USBハードディスクのファイルシステムが損傷したならば、DVRを再起動してもアーカイブを試みる際にエラーメッセージが出続けるようになります。そのような場合はUSB－HDDをもう一度初期化するか、市販の復旧プログラムを利用して外付ドライブのファイルシステムの損傷した部分を復旧してください。

付録 A — USBハードディスクのインストール

USB-IDEハードディスクをDVRに接続する為には、事前にのWindows PCを用いて初期化する必要があります。本章ではこの初期化の方法について説明します。

Windows 2000を用いてUSB-IDEハードディスクを初期化する

参考: Windows XPを用いたUSB-IDEハードディスクの初期化は、Window2000とほとんど同じです。

1. USBケーブルを使用してUSB-IDEハードディスクをPCに接続します。
2. PCを起動させます。
3. USB装置のアイコンがタスクバーに表示されます。
4. もしUSB-IDEハードディスクのパーティションが既に作成され、データが保存されている場合、他のハードディスクと同様にマイコンピュータで内容を確認できます。
   「登録情報」→「一般」→「ファイルシステム」の順にアイコンにカーソルを当てて、マウスの右ボタンをクリックして確認します。もし、ファイルシステムがFAT32フォーマットでない場合、USB-IDEハードディスクをFAT32フォーマットにフォーマットし直します。
5. USB-IDEハードディスクのパーティションを作成するには「管理者ツール」→「コントロールパネル」→「コンピュータ管理」を実行します。「保存装置」の「ディスク管理者」を開けて、USB-IDEハードディスクの未割当領域にマウスカーソルを当て、マウスの右ボタンをクリックしてパーティションを作ります。
6. 「パーティション作成ウィザード」で「Next」をクリックすると、「メインパーティション」画面の説明に従ってパーティションを作ります。ファイルシステムをFAT32に選択したかどうか確認します。

参考: パーティションのサイズはマイクロソフトの制限があるため、32GBより小さく設定してください。

7. フォーマットを完了すると、USB-IDEハードディスクがマイコンピュータ内に追加されます。
8. DVRにUSB-IDEハードディスクを接続します。

Windows 98を用いてUSB-IDEハードディスクを初期化する

参考: Windows MeにUSB-IDEハードディスクをインストールする方法は、Window98とほとんど同じです。

1. USBケーブルを使用して、USB-IDEハードディスクをPCに接続します。
2. PCを起動すると、新しいハードウェア追加ウィザードのウィンドウが現れます。
3. USB-IDEハードディスクに添付された説明書に従って、USB-IDEバックアップ装置に対するデバイスドライバをインストールします。
4. もしUSB-IDEハードディスクのパーティションが既に作成され、データが保存されている場合、他のハードディスクと同様にマイコンピュータで内容を確認できます。
   「登録情報」→「一般」→「ファイルシステム」の順にアイコンにカーソルを当てて、マウスの右ボタンをクリックして確認します。もし、ファイルシステムがFAT32フォーマットでない場合、USB-IDEハードディスクをFAT32フォーマットにフォーマットし直します。
5. Fdisk Utilityを実行するために、「スタート」で【ファイル名を指定して実行】を選択して「fdisk」をタイピングしてOKをクリックします。

6. MS-DOSプロンプト(Prompt)が現れます。「Y」を入力してエンターキーを押します。
7. FDISK選択メニューで、「5.現在のハードディスクドライブ変更」を選択します。
8. USB-IDEハードディスクに適合したものを選択します。
9. FDISK選択メニューで、「1.分割領域又は論理DOSドライブ指定」を選択します。
10. DOS分割領域又は論理DOSドライブ指定メニューで、「1.基本DOS分割領域指定」を選択して、可能な空間を利用するため、「Y」を入力してエンターキーを押します。USB-IDEハードディスクのパーティションが作られてから、画面を移動するためにESCキーを押します。
11. コンピュータを再起動させて、マイコンピュータの中に新しいドライブが作られたことを確認します。
12. 新しく作られたハードディスクアイコンにマウスカーソルを当て、マウスの右ボタンをクリックしてフォーマットを選択します。
13. フォーマット画面でフォーマット形式の「全体」を選択してスタートを選択します。
14. フォーマットを終えてから、DVRにUSB-IDEハードディスクを接続します。

付録 B — テキストイン情報のクエリー例

クエリー例1

```
         1         2         3         4         5         6
123456789012345678901234567890123456789012345678901234567890


    Item       Unit price     Qty       amount
==================================================
 Coke         | $    2.20 |     1(s)  | $      2.20
 Fanta        | $    2.20 |     1(s)  | $      2.20
 Hotdog       | $    3.50 |     3(s)  | $     10.50
 Pepsi        | $    1.95 |     1(s)  | $      1.95
==================================================
                             total : $      16.85
Thank you~~
```

このテキストイン情報では、比較値が左端から17文字目(Unit price)、28文字目(Qty)、および40文字目(amount)に位置しています(スペース文字を含みます。$記号は自動的に無視されます)。この場合、コラムボックスの各行に17、28、40を入力できます。

例えば、Qty(数量)が1より大きいCokeと、amount(合計金額)が8ドルを超えるHotdogを検索する場合は、検索条件を次のように設定できます。

テキストイン検索条件

開始 ☑始め 2007/11/15 19:10:53
終了 ☑終わり 2007/11/15 19:10:53
チャンネル 1~16
汎用テキスト

番号	–	名前	比較演算子	値	コラム	列	✖
1		Coke	>	1	28	0	✖
2	AND	Hotdog	>	8	40	0	✖
					0	0	✖
					0	0	✖
					0	0	✖

+ ☐大小文字区分

取込 保存 決定 キャンセル

クエリー例2

```
         1         2         3         4         5         6
123456789012345678901234567890123456789012345678901234567890


    Item       Unit price     Qty       amount
==================================================
 Coke          | $    2.20 |     1(s)
                                       $      2.20
 Fanta         | $    2.20 |     1(s)
                                       $      2.20
 Hotdog        | $    3.50 |     3(s)
                                       $     10.50
 Pepsi         | $    1.95 |     1(s)
                                       $      1.95
==================================================
                             total : $       16.85
Thank you~~
```

このテキストイン情報では、比較値が左端から17文字目(Unit price)、28文字目(Qty)、および40文字目(amount)に位置しています(スペース文字を含みます。$記号は自動的に無視されます)が、amountカテゴリーの行がItemとは異なっています。この場合、コラムボックスの各行に17、28、40を、列ボックスには次行を示す1を入力できます。

例えば、Qty(数量)が1より大きいCokeと、amount(合計金額)が8ドルを超えるHotdogを検索する場合は、検索条件を次のように設定できます。

付録 C — ウェブガード

ウェブガード(WebGuard)はインターネット上で別度のプログラムがなくても遠隔地の映像を監視及び検索できるもので、一般ブラウザ(インターネットエクスプローラ)を用いて簡単に接続できます。

ウェブガードの行うためには下記の通り PCのシステムの仕様が必要です。

- OS: Microsoft Windows 2000、Microsoft Windows XP、Microsoft Windows Vista
- CPU: Intel Pentium III (Celeron) 600MHz以上
- RAM: 128MB以上
- VGA: 8MB以上 (1024x768、24bpp以上)
- Internet Explorer: バージョン6.0以上

インターネットエクスプローラを実行してからアドレス入力欄に"http://www.dvronline.net"を入力します。

参考: ウェブガードはマイクロソフトのインターネットエクスプローラ(Microsoft Internet Explorer)でのみ支援されます。

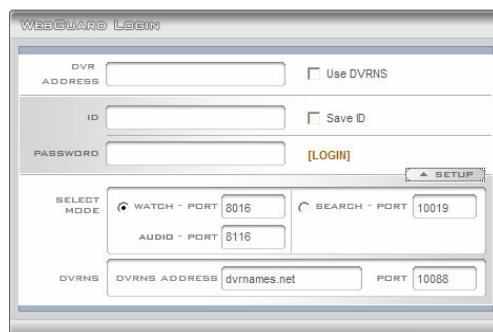



図 96 — ウェブガードログイン画面

ウェブガードのログイン画面 が表示されたら接続を希望するDVRの IP アドレスあるいはDVRNSサーバへ登録したDVR名を(ログインメニューから"Use DVRNS"オプションを選択した場合)を入力します。SETUPボタンを選択して希望するモード、"WATCH"(ウェブ監視)または"SEARCH"(ウェブ検索)を選択してから各プログラムのポート番号を入力します。"Use DVRNS" オプションを選択して"DVRNS" 項目へDVRNSのサーバーのアドレス及びポート番号を入力します。ID及びパスワードを入力して[LOGIN]ボタンをクリックすると選択したモードに接続されます。"Save ID"を選択すると入力したIDを保存します。

参考: "WATCH"及び"SEARCH"ポート番号はネットワーク設定の際、入力した"遠隔監視"及び"遠隔検索"ポート番号と同一する必要があります。.

参考: 新しいバージョンのウェブガードを開く場合、インターネットエクスプローラで以前のバージョンの情報を読込むことがあります。その場合には、コントロールパネル → インターネットオプション → 全般に移動してインターネット一時ファイルでファイルの削除をしてから、ウェブガードを行ってください。

参考: マイクロソフトウィンドウズヴィスタ (Microsoft Windows Vista) 運営体制からウェブガードを起動する場合、インターネットエクスフローラアイコンからマウスの右側のボタンをクリックして表示するメニューから "管理者として実行" オプションを選択してください。 "管理者として実行" をしないとウェブガードプログラムの一部の機能が制限されることがあります。

参考: マイクロソフトウィンドウズ・ヴィスタ(Microsoft Windows Vista)運営体制では映像転送速度の低下によりウェブガードのスクリーンの画面が表示されなかったり、更新しなかったりする恐れがあります。本症状の場合は、御使用のPCのオートーチューニング機能の解除をお勧めします。

管理者権限でコマンドプロンプト実行(“スタート”メニュー → “すべてのプログラム” → “コマンドプロンプト” → マウスの右ボタンを利用し、“管理者として実行”選択)。“netsh int tcp set global autotuninglevel=disable”を入力してから縁たーENTERキーを押してください。PCは再起動してから変更された設定を適用します。

オートーチューニング機能を再度復旧するためには管理者権限でコマンドプロンプトを実行してから“netsh int tcp set global autotuninglevel=normal”を入力してください。PCは再起動してから変更された設定を適用します。

ウェブ監視モード

ウェブ監視は遠隔地の映像をリアルタイムで監視できる遠隔地ウェブ監視のプログラムです。

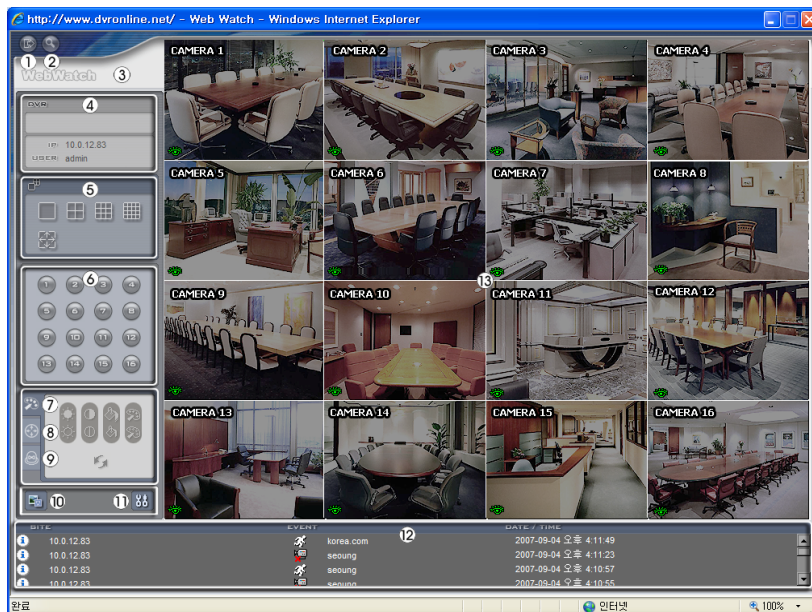



図 97 — ウェブガードの監視画面

① を押すとウェブガードのプログラムが終了されます。

② を押すとウェブ検索モードに転換されます。

③ マウスのポインタをWebWatchのロゴ部分に置けばウェブガードのバージョンを確認することができます。

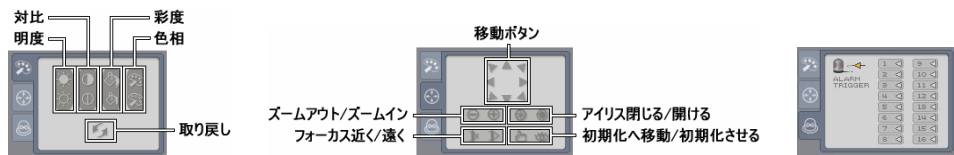
④ ウェブガードログイン情報を表示します。

⑤ ディスプレー モードを選択することができます。ディスプレーモードを変更する場合、今のスクリーンから選択したカメラが変更されるレイアウトの最初の画面に位置します。

⑥ 監視したいカメラを選択します。

⑦ を押すと映像の画質を調節することができます。

⑧ を押すと遠隔地のPTZカメラを制御することができます。

⑨ を押すと遠隔地のアラーム出力を制御することができます。

⑩ を選択して現在の映像をグラフィックファイルとして保存します。

⑪ を押すとディスプレイモード及びOSDの表示を設定することができます。ディスプレイモードを選択して映像を出力するスピードを調整することが可能であり、OSD表示リストより画面に表示するOSD情報も選択することができます。

⑫ イベント状態窓は遠隔地で検知されたイベントリストを表示します。

⑬ 画面よりカメラを選択してマウスの右ボタンをクリックします。“カメラタイトル変更”及び“画面レート”を選択してカメラタイトル及び画面レートを変更することができます。“ブロック現象改善”を選択すると拡大映像から見られるブロック現象を除去し、画面へ表示する映像の出力品質を向上させることができます。

参考: ウェブウォッチモードから変更したカメラのタイトルは遠隔地のシステムには影響を及ぼしません。また、カメラタイトルを入力しないと遠隔地から設定したカメラ名がスクリーン上に表示されます。

ウェブ検索モード

ウェブサーチは遠隔地の録画映像を検索することができる遠隔地ウェブ検索プログラムです。

参考: ウェブ検索スクリーンからの遠隔地接続は30分以上の操作がない場合、自動解除されます。

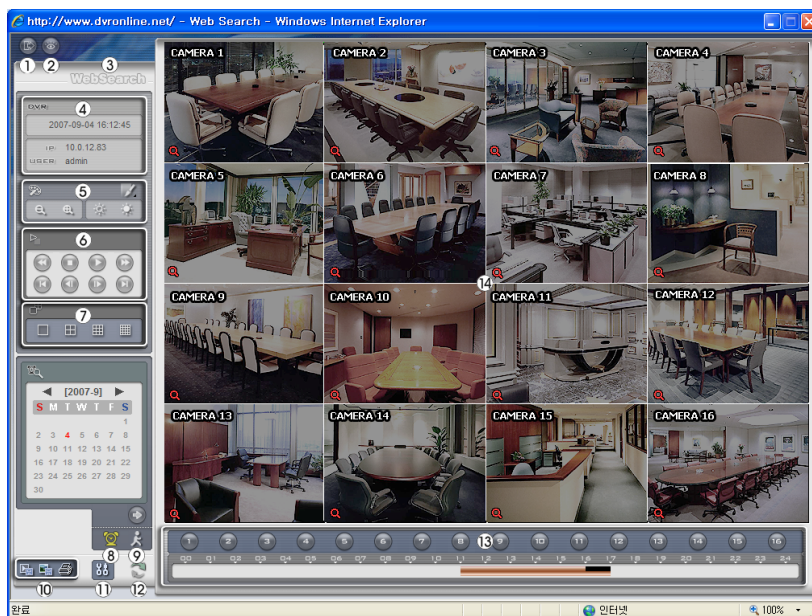



図 99 — ウェブガードの検索画面

① を押すとウェブガードのプログラムが終了されます。

② を押すとウェブ監視モードに切り替えます。

③ マウスのポインタをWebSearchのロゴ部分に置けばウェブガードのバージョンを確認することができます。

④ 遠隔地DVRの時間情報及びウェブガードログイン情報を表示します。

⑤ を押して映像に様々なイメージフィルターを適用します。 を押して映像を縮小及び拡大します。 を押して映像の明るさを調節します。

参考: 映像調整は一時停止状態でのみ適用されます。

⑥ 再生ボタンを押して映像を巻き戻し、一時停止、正倍速、早送、映像の最初に移動、コマ送り、
映像の最後に移動します。

⑦ ディスプレーモードを選択することができます。

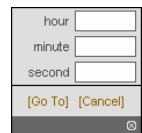
⑧ を押してタイムラプス検索モードを用い、録画映像を検索及び再生します。タイムラプス検索モードでの検索は日付単位に構成されカレンダーで検索しようとする日付を選択することができます。タイムテーブルはカレンダーで選択した日付の録画映像の時間情報を表示します。検索したい時間を選択すると該当の時間帯の映像を画面に表示します。該当の時間帯に一つ以上の映像がある場合には検索するセグメントを選択することができます。 を押して検索する日付及び時間を設定して特定時間帯の映像にすぐ移動することができます。

⑨ を押してイベント検索モード用いて使用者が指定した条件を満足するイベントを検索することができます。

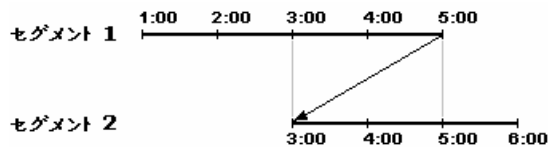
⑩ を選択して録画映像を実行ファイルあるいは、を選択してグラフィックファイルとして保存します。 を押して現在の映像をパソコンに接続されているプリンタで印刷します。

⑪ を押すとディスプレイモード及びOSDの表示を設定することができます。ディスプレイモードを選択して映像を出力するスピードを調整することが可能であり、OSD表示リストより画面に表示するOSD情報も選択することができます。

⑫ を選択するとタイムテーブルはカメラの録画情報を時間単位で表示します。

⑬ 画面よりカメラを選択してマウスの右ボタンをクリックします。“カメラタイトル変更”及び“画面レート”を選択してカメラタイトル及び画面レートを変更することができます。“ブロック現象改善”を選択すると拡大映像から見られるブロック現象を除去し、画面へ表示する映像の出力品質を向上させることができます。

参考: ウェブウォッチモードから変更したカメラのタイトルは遠隔地のシステムには影響を及ぼしません。また、カメラタイトルを入力しないと遠隔地から設定したカメラ名がスクリーン上に表示されます。

付録 D — 時間重複

使用者が時刻を戻して録画を行う場合、同一の時間帯に一つ以上の録画映像が存在する可能性があります。この場合、重なった時間の録画映像はセグメントを区分して検索する必要があります。例えば、1時より5時までの録画映像が存在する場合、使用者がシステム時間を5時より3時に変更してから6時まで録画を行うと3時より5時までの録画映像が二つ存在することになります。この場合に3時より5時までの時間帯には二つのセグメントは発生します。

重なった時間の録画映像を検索する時には特定時間または時間範囲を選択することができます。重なった空間の3時より5時の間の区間で"日時指定検索"などの検索メニューを用いてある特定の検索時間を指定する場合、"4時"の録画映像を検索しようとすると重なった二つのセグメントの中にどのセグメントの4時なのかを選択する必要があります。

参考: "セグメント"の字の前の数字が小さいものが後に録画したデータです。

時間が重なった3時~5時区間で、"イベントログ検索"、"テキストイン検索"及び"モーション検索"などの検索メニューを使用して検索時間範囲を指定する場合、"4時~5時"の間の録画映像を検索したい場合には、重なった二つの検索開始と終了時間の中に一つを選択する必要があります。選択できる検索範囲は下記の通りです。

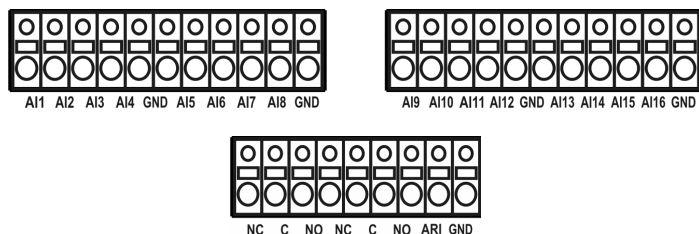
- セグメント1の4時~セグメント1の5時
- セグメント1の4時~セグメント2の5時
- セグメント2の4時~セグメント2の5時

範囲を選択して下さい
1: 範囲 1 ~ 1
2: 範囲 1 ~ 2
3: 範囲 2 ~ 2

付録 E — 故障の際の確認事項

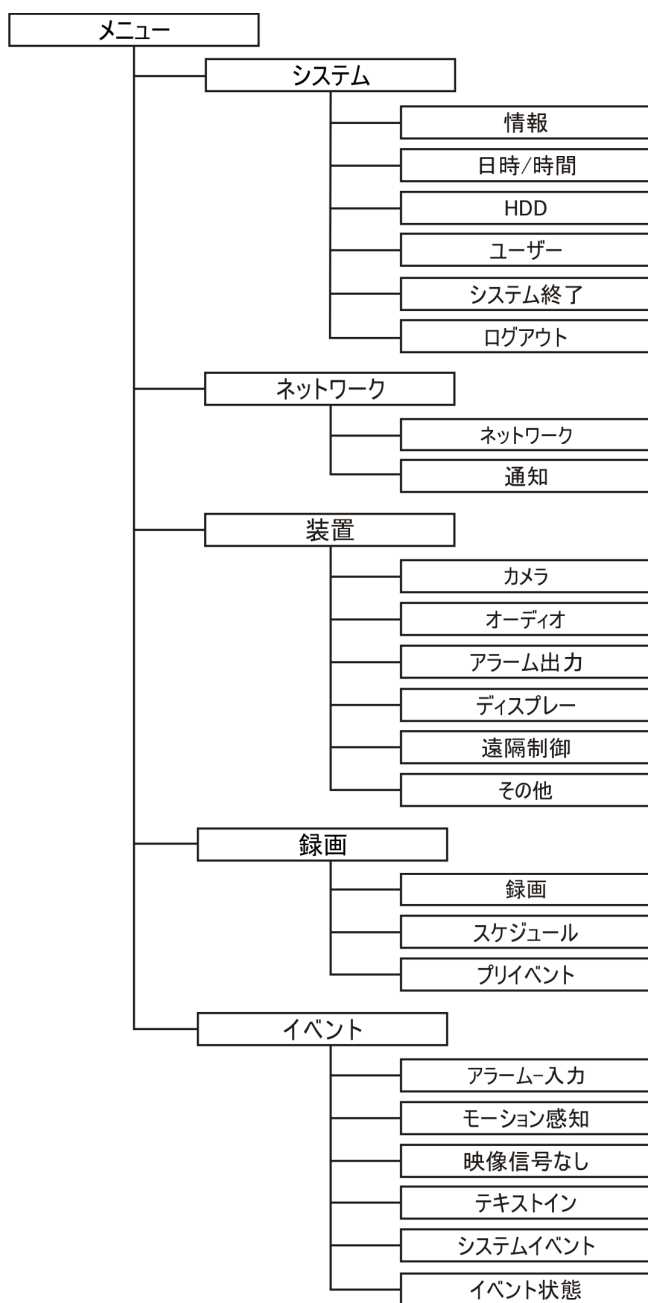
症状	確認事項
本体が起動しません。	• 電源コードの接続状態を確認します。 • コンセントの電源を確認します。
リアルタイム映像が見えません。	• カメラ映像ケーブルとの接続状態を確認します。 • モニター映像ケーブルとの接続状態を確認します。 • カメラの電源を確認します。 • カメラレンズの設定状態を確認します。
リアルタイム映像が明る過ぎます。	もしケーブルが「Loop」コネクターに接続されているならば、それが適切な終端装置に接続されているかを確認します。
●アイコンが画面に表示されていますが、DVRは録画しません。	プリイベント設定になっているとイベントが発生しないため録画されていない場合は、黄色い と●が表示されます。イベントが発生して録画される場合は、赤い と●が表示されます。
DVRが録画中に止まってしまいました。	ハードディスクが一杯になると、古い映像から消しながら録画をし続ける上書きモードに設定します。

付録 **F —** コネクターの配置

入出力コネクターの配置

AI (1 – 16)	アラーム入力 1 – 16
GND	アース(5個のコネクター)
NC	リレーアラーム出力 (Normally Closed)
NO	リレーアラーム出力 (Normally Open)
C	リレーCommon
ARI	アラームリセット入力

RS485コネクターの配置

マスター機器				スレーブ機器
RX-/TX-	→	To	→	TX-/RX-
RX+/TX+	→	To	→	TX+/RX+

付録 G — 設定画面の構成図

付録 H — システムログとエラーコードタイプ

システムログ

システム開始	設定移出
システム終了	設定移出失敗
システム再開始	設定移出取消
アップグレード	スケジュール作動
アップグレードエラー	スケジュール終了
電源エラー	緊急録画開始
時間変更	緊急録画終了
標準時間帯変更	全てのデータ削除
タイムサーバー成功	ディスク削除
タイムサーバー失敗	ディスク初期化
ディスクエラー	ディスクフル
ログイン	自動削除
ログアウト	検索開始
設定開始	検索終了
設定終了	バックアップ開始
遠隔設定変更	バックアップ終了
遠隔設定エラー	バックアップキャンセル
設定読込	バックアップ失敗
設定読込失敗	コールバック失敗

エラーコード

アップグレードエラーコード		バックアップエラーコード	
番号	エラータイプ	番号	エラータイプ
0	原因不明のエラー	0	原因不明のエラー
1	ファイルバージョンに合いません	1	装置エラー
2	OSバージョンに合いません	2	装置接続失敗
3	SWバージョンに合いません	3	CDメディアがありません
4	カーネルバージョンに合いません	4	間違ったメディア
100	保存装置マウント失敗	5	同じ名前のファイルがあります
101	ファイルが見つかりません	6	残容量が不足
102	ファイル圧縮解凍失敗	7	一時ファイル作成失敗
103	リロ(LILO)実行失敗	8	ディスクを開くのに失敗
104	再起動失敗	9	ディスク初期化失敗
105	正しくないファイル	10	データベース変更
106	光学ドライブのファームウェアのアップデート失敗	11	保存失敗
300	遠隔接続失敗	12	ディスクエラー発生
301	遠隔ネットワークエラー	13	クリッププレーヤー実行ファイルがありません
302	遠隔アップグレード権限がありません	14	クリッププレーヤー実行ファイルを開くのに失敗
303	遠隔アップグレードファイルの保存失敗	15	クリッププレーヤー実行ファイル保存失敗
304	ユーザーが遠隔アップグレードをキャンセル	16	イメージ作成失敗
400	USB保存装置でマウント失敗	17	書込み失敗
401	USB保存装置でファイル読取り失敗	18	書込み時間超過
402	USB保存装置でファイルコピー失敗	22	データ検証失敗
500	バックアップ中のためアップグレード失敗		

付録 I — 製品の仕様

ビデオ		
信号形態	NTSC または PAL (自動検出)	
ビデオ入力	Composite: 8 または 16 BNC、1 Vp-p、auto-terminating、75 Ohms	
モニター出力	Composite: 1 BNC、1 Vp-p、75 Ohms SPOT: 1 BNC、1 Vp-p、75 Ohms	8 または 16 loop through VGA: 1
ビデオ解像度	Composite: 720x480 (NTSC)、720x576 (PAL)	VGA: 800x600@60Hz
再生/録画速度 (秒当りのイメージ)	120/120ips (NTSC)、100/100ips (PAL)	
入/出力		
アラーム入力	8 または 16 TTL、NC/NO programmable、4.3V threshold	
アラーム出力	2 relay outputs、termninal block、programmable as NC or NO、0.5mA@125VAC、1A@30VDC	
アラームリセット入力	1 TTL、terminal block	
内臓ブザー	10cmの距離で80dB	
ネットワーク接続	10/100 Mbps Ethernet、RS-232 (外付モデム用)	
オーディオ入力	2(independent) line、RCA	
オーディオ出力	1 line、RCA	
テキストイン	POS Interface、ATM Interface	
コネクター		
ビデオ入力	Composite: 8 または 16 BNC	
ビデオLoop	Composite: 8 または 16 BNC	
モニター出力	Composite: 1 BNC、VGA: 1 DB15、Secondary: Composite 2 BNC	
オーディオ入力	RCA connector	
オーディオ出力	RCA connector	
通知	Terminal block	
イーサネットポート	RJ-45	
RS232シリアルポート	1 DB9 (P)、text insertion (POS/ATM) または外付モデム (programmable)	
RS485シリアルポート	Terminal block、telemetry control、遠隔制御キーボード (programmable)	
USBポート	2 (バックアップ、マウス接続用)	
保存		
メイン保存装置	EIDE HDD (Max. 4、内蔵 CD-RWまたはDVD RW設置する場合には Max. 3)	
バックアップ装置*	USB 保存装置、内蔵 CD-RW	
一般		
外形サイズ (W x H x D)	430mm x 88mm x 400mm (16.9" x 3.5" x 15.9")	
包装サイズ (W x H x D)	540mm x 290mm x 590mm (21.3" x 11.4" x 23.2")	
本体重量 / 包装重量	10.2kg (22.5 lbs.) / 12.5kg (27.6 lbs.)	
動作温度 / 動作湿度	5°C – 40°C (32F~104F) / 0% – 90%	
電源	100 – 240 VAC、4 – 2 A、60/50Hz	
認証	FCC、UL、CB、CE、PSE	

* 内蔵CD-RWまたはDVD RWドライブを設置する場合にはJUMPERをMasterに設定してから必ずSecondary IDEチャンネルに接続して下さい。

本製品の仕様は、製品の改良のため、事前予告なしに変更されることがあります。